

河正雄コレクション 資料集 第5号

菊池 一雄



2021年10月

河正雄コレクション 資料集 第5号

菊池 一雄

2021年10月

発行に寄せて

菊地正志

この資料集制作に携わるまで彫刻家菊池一雄を知らなかった。東京・三宅坂にある「平和の群像」のことも初めて知った。さらに菊池が「原爆の子の像」の作者だと聞いて驚き、「無知」を恥じた。「原爆の子の像」は広島市平和公園で何度か目にしている。その後、国会図書館の帰り道に「平和の群像」を訪れ、慶応大学で「青年像」も見た。青年のモデルは従軍中に喉を潰した声楽家志望の学生。「原爆の子の像」は白血病で亡くなった被爆少女の慰霊像。菊池の代表作に共通するのは〈平和への祈り〉だ。

敗戦が色濃くなってきた戦争末期、菊池は軍隊に身を置いていた。本土決戦に備えた海岸防衛部隊の中隊長。海岸線を越えて上陸してくる連合軍に切り込む決死部隊だ。当時、菊池に面会した今泉篤男（美術評論家）は、「彼は口にはしなかったけれど、すでに死は覚悟していた風があったが、未練は彫刻の仕事だけにのこっている様子だった。（中略）こういう若い優れた彫刻家も戦争の前には単なる一人の消耗品に過ぎないと思うと、喉の奥がウウと鳴った」（作品集『菊池一雄』）と書き記している。

幸いにして菊池は、人間を消耗品扱いした「狂気の時代」を生き延びた。そして彫刻を造り始める。「平和の群像」は1951年、軍国主義の象徴ともいえる寺内正毅元帥の騎馬像を撤去した跡に平和を願って建立された。素朴で穏和だが、内に秘めた力強さを感じさせる3人の裸婦像。理性を中心に愛情と意欲を象徴しているという。「私たちの新しい平和な生活は、冷徹な知性と、人間的な愛情と、前途を開拓する勇気が重大な要素となる」（菊池一雄）。フェイクニュースが社会問題となり、不確かな情報やデマ、意図的に作られた偽情報が飛びかう現代だからこそ、菊池がまず第一に指摘した〈冷徹な知性〉こそ、今を生きる私たちに求められているのではないだろうか。

河正雄は今春、偶然に菊池のマケット（雛形）作品「平和の群像」と巡り合った。「秘仏のようだ」。そう直感した河正雄が、菊池の彫刻作品と想いを生かした「ふるさとの碑・平和の群像」の建立を発案した。その記念碑は秋田県仙北市に寄贈され、地元の理解と協力を得て田沢湖畔の御座石に完成した。

浅川巧の人間力に共鳴して「露堂堂」と生きてぬいきた在日2世の河正雄にとって、「ふるさと・田沢」に記念碑を建立することは悲願だった。彼の魂の祈りが「ふるさとを 田沢と呼ばん 彼岸花」の句と、裏面の文章に刻み込まれている。今年建立された「浅川伯教・巧兄弟顕彰碑」と「在日韓民族慰霊塔由来碑」も日韓両国の友好と平和を願い、地域に貢献してきた長年の結晶だ。

菊池一雄と河正雄の〈平和への祈り〉を感じてほしい。

2021年10月

きくち・まさし ジャーナリスト、埼玉新聞記者。埼玉新聞社編集局経済部長、文化くらし部長、編集委員などを歴任。1958年群馬県出身。さいたま市岩槻区在住。

■ 目次

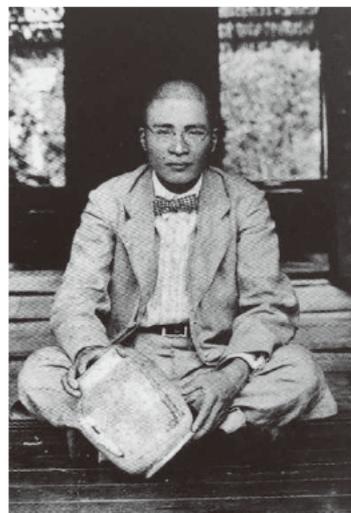
はじめに	
発行に寄せて	2
目次	3
露堂堂と生きる (河正雄)	4
河正雄コレクションとは	6
I ふるさとの碑・平和の群像	
主な経過	8
設計図	10
案内板・受納通知	12
信不信を選ばず 浄不浄を選ばず 甦る (河正雄)	13
ふるさとを 田沢とよぼん 彼岸ばな (河正雄)	19
菊池一雄プロフィール	22
平和の群像 (菊池一雄)	23
原爆の子の像 (菊池一雄)	25
青年像 (菊池一雄)	26
II 浅川伯教・巧兄弟顕彰碑	
主な経緯	28
露堂堂と生きた浅川巧 (河正雄)	29
寄付採納受諾書	31
レリーフ (張山裕史)	32
書 (植松永雄)	33
写真と図面	34
新聞報道	35
III 在日韓民族慰霊塔由来碑	
主な経緯	44
聖天院・在日韓民族慰霊塔由来碑の建立 (河正雄)	45
高麗王と眠る (河正雄)	48
建立に寄せて (河正雄)	51

露堂堂と生きる

河 正雄

2021年の年明けは2020年からの新型コロナウイルス禍が収束せぬままに幕を開けた。4月25日には新種、変異株ウイルスなどで第4波による3度目の緊急事態宣言が4都府県に発出され、7月12日には東京都に4度目の緊急事態宣言となった。7月23日に1年延期となった2020東京オリンピック、8月24日にはパラリンピックが開催された。世界は感染力の強い「デルタ型変異株」による第5波襲来で感染は広がる一方である。医療の受け入れ態勢は限界を超え、救える命が救えない拡大速度となっている中の無観客開催で終えたが、世界的に事態は一向に収まる気配を見せておらず第6波へ体制見直しの世相である。

私が生きた82年間には第2次世界大戦、朝鮮の解放、祖国朝鮮半島に於ける南北戦争、オイルショック、バブル崩壊、リーマンショック、阪神淡路大震災、東日本大震災等々、暇ない社会変事と自然災禍があった。世の中とはこういうものだと平常心を保ち、これらの変事を潜り抜けて生きることが出来たのは、幸せな人生を送って来たとは言える。



浅川巧

変動の2021年、私の身に慶事が起きた。3月27日の「在日韓民族慰霊塔由来碑」(埼玉県日高市・聖天院)の建立、6月13日の「浅川伯教・巧兄弟顕彰碑」(山梨県・北杜市)の建立、そして11月3日に建立される「ふるさとの碑・平和の群像」(秋田県仙北市・田沢湖畔)である。この3件の慶事は、世界中のコロナウイルス災禍中であれ、浅川巧のように「露堂堂」と生きぬき、良い心、広い心を持って、ふるさとのため、世のため、人のために尽くしてきたささやかな証だと喜んでいる。

カント学者でリベラリストであった安倍能成著『青丘雑記』(1932年、岩波書店)の中に「浅川巧さんを惜む」の文がある。これが1934年、中等学校教科書『国語 六』に「人間の価値」と題して収録され、世の人々に知られることとなった。私は秋田工業高校3年(1958年)の時秋田県立図書館で『青丘雑記』を読み記憶に止めたことが、浅川巧との出会いとなり、その後の清里ライフの基になった。

「巧さんのやうな正しい、義務を重んずる、人を畏れずして神のみを畏れた、独立自由な、(中略)官位にも学歴にも権勢にも富貴にもよることなく、その人間の力だけで露堂々(著者注…禅語。何一つ隠すことなく堂々とあらわれるさま)と生きぬいて行った。かういう人はよい人といふばかりでなくえらい人である。かういう人の存在は人間の生活を頼もしくする。(中略)人類にとって人間の道を正しく勇敢に踏んだ人の損失ぐらい、本当の損失はないからである。」

『俺は神様に金はためませんと誓った』といはれたそうである。(中略)それは其自身の為になされてその他の目的の為に、報酬の為になされることを、極度に忌まれた様に思ふ。(中略)これも行為を行為そのもの以外の何物にも託すまいとする道徳的純潔から来たものであろう。」

安倍能成をしてかく言わしめた浅川巧は、今も私の心に普遍の価値として生きている。弱者を

見過ごせない清貧の人、右手で行った善行を左手に知らしめない行為は、常に朝鮮の人々の心に解け込もうとする彼の人格がさせたことだ。さらに「浅川巧さんを惜む」は続いている。

「^{かんかつ}奸黠な者、無能な者、怠惰な者、下劣な者の多くは、巧さんより遥かに高禄を食み、その中には朝鮮で最も幅のきく『長』を享樂している者もあろう。しかし我々からいへば、巧さんの如きは、微禄でも卑官でも、その人によってその職を尊くする力ある人である。巧さんがこの位置にあってその人間力の尊さと強さとを存分に発揮し得たといふことは、人間の価値の商品化される当世に於て、如何に心強いことであつたらう。私は巧さんの為にも世の為にも寧ろこの事を喜びたい。」

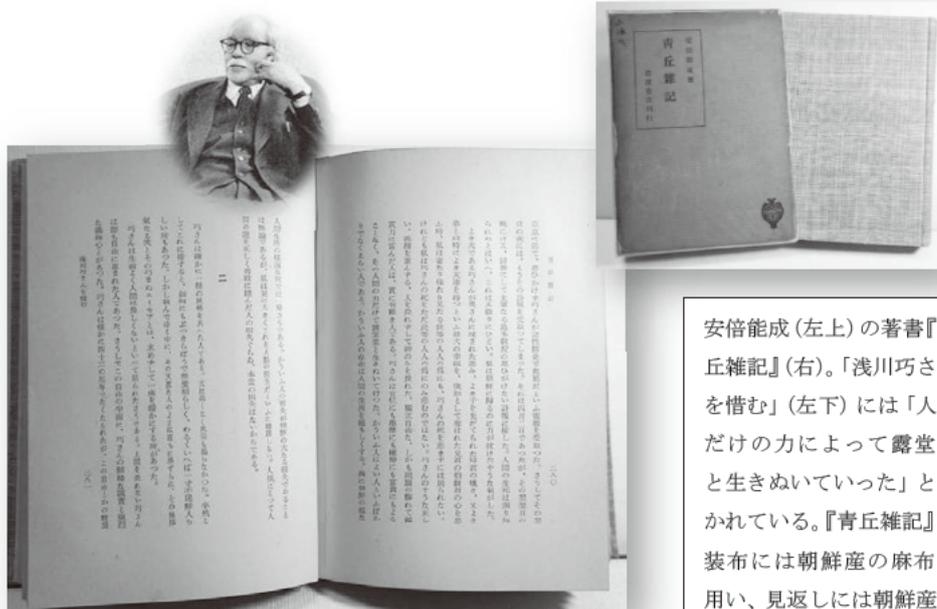
「巧さんの仕事が、種を蒔いて朝鮮の山を青くする仕事で、(中略)一粒の種を蒔き一本の木を生ひ立てた方が、どんなに有益な仕事か知れない。巧さんが『種蒔く人』であつた。」

浅川巧が朝鮮人の生活に親しみ、文化を研究し、大正12年来、柳宗悦や兄浅川伯教と協力して朝鮮民芸美術館を設けた態度は実に無私であつた。

「内地人が朝鮮人を愛することは、内地人を愛するより一層困難である。感傷的な人道主義者も抽象的な自由主義者も、この実際問題の前には直ぐに落第してしまふ。(中略)巧さんの生涯はカントのいった様に、人間の価値が実に人間にあり、それより多くでも少なくでもないことを実証した。私は心から人間浅川巧の前に頭を下げる。」

私は人を惜しむ文でこれほど痛切に真情を吐露した言葉を他に知らない。戦前教科書に載つた安倍能成のこの文章が、戦後になってなぜ教科書から消えてしまったのか。政治や経済が変われば、『人間の価値』そのものまで変わっていくともいうのだろうか。お金の価値のように人間の価値も変わるものだろうか。価値は変わらないのだが人間が変わり、世の中の都合で変わっただけではないかと思われるがどうであろうか。

私は、どんな時代でも人間の価値は変わるものではないと思ひ、今日まで浅川巧を敬愛し、感謝の想いで在日を生きてきた。私の旅の途中の慶事を分かち合い、コロナウイルスの災禍を祓い、平安と幸福を祈念したいと思ふ。



安倍能成(左上)の著書『青丘雑記』(右)。「浅川巧さんを惜む」(左下)には「人間だけの力によって露堂堂と生きぬいていった」と書かれている。『青丘雑記』の装布には朝鮮産の麻布を用い、見返しには朝鮮産の紙が使われている

河正雄コレクションとは

河正雄コレクションは、在日韓国人2世で実業家の河正雄が約55年かけて収集した1万2千余点の美術作品群。河正雄はメセナ（文化・芸術の支援）精神と「分かちあう心の美学」を実践している先駆者です。

河正雄は20世紀に祖国と日本の不幸な歴史の中で亡くなられた犠牲者無縁の霊を慰めるために、秋田県田沢湖畔に「祈りの美術館」を建立しようと、在日作家の美術作品を中心にコレクシ



河正雄

ョンを始めました。計画は日韓の歴史認識問題などで実現しませんでした。その後、収集したすべての美術作品を韓国・光州市立美術館をはじめ、霊岩郡立河正雄美術館や秋田県仙北市立角館町平福記念美術館など、韓国と日本の公的な美術館等に寄贈しています。美術を通して、韓国と日本を結ぶ懸け橋の役割を果たしている歴史的にも貴重なコレクションです。

韓日の痛みの中で在日として生きてきた河正雄コレクションのコンセプトは「祈り」で

す。それは愛と慈悲にあふれた平和への祈りであり、犠牲となった人々や虐げられた人々、社会的な弱者、歴史の中で名もなく受難を受けた人々に向けられた人間の痛みへの祈りの心が込められています。

東江 河正雄（ハ・ジョンウン） 1939年生まれ（晋陽河氏）。

59年秋田県立秋田工業高校卒。72年株式会社かわもと（不動産賃貸業）創立。韓国光州盲人福祉協会（81年）と同会館（89年）設立。2001年終身光州市立美術館名誉館長就任。03年韓国朝鮮大学校美術学名誉博士号授受。07年韓国朝鮮大学校デザイン大学院客員教授就任。光州広域市・釜山広域市・ソウル市名誉市民、全羅北道名誉道民、山梨県北杜市名誉市民。韓国の文化芸術発展に寄与した功勞により、2012年に在日韓国人で初の宝冠文化勲章を受勲した。著書に『全和風－祈りの美術』『望郷－二つの祖国』『恨'95』『韓国と日本、二つの祖国を生きる』『二つの祖国』『祈りの美術』『念願の美術』『尋劍堂』など。

河正雄アーカイブ <https://www.ha-jw.com/>

姫観音建立 82 周年記念

ふるさとの碑・平和の群像

2021 年 11 月 3 日（木）建立

秋田県仙北市・御座石



姫観音・田沢寺

主な経緯

- 1985年4月20日 田沢湖観光協会の呼び掛けで田沢湖姫観音供養祭が初めて執行され、参席する。1981年に田沢湖町によって建てられた姫観音像建立由来の案内板の文面に疑問を持った。そこから真相究明の調査が始まる
- 1990年9月23日 田沢寺墓地に「朝鮮人無縁仏慰霊碑」建立、第1回朝鮮人無縁仏追悼慰霊祭執行
仏画全和風作2点寄贈「百済観音」「弥勒菩薩」
田沢寺奉安室にある朝鮮人無縁仏位牌の施主となり供養を始める
- 1991年6月12日 田沢寺にて「姫観音像建立趣意書」を発見。「付言」として工事犠牲者の供養が明記
- 1991年8月13日 朝日新聞が全国版で報道
- 1991年9月22日 第2回姫観音並びに朝鮮人無縁仏追悼供養会・田沢湖畔及び田沢寺（高橋福治氏から姫観音供養を依頼される）
- 1994年5月18日 夏瀬ダム工事での生き証人・李用鎮氏の証言を得る
- 1993年8月11日 第3回姫観音並びに朝鮮人無縁仏追悼供養会・田沢湖畔及び田沢寺
- 1994年11月1日 秋田県教職員組合発行「平和教育読み物資料集」に「姫観音」収録される
- 1994年11月3日 第4回姫観音並びに朝鮮人無縁仏追悼供養会・田沢湖畔及び田沢寺
- 1995年10月22日 第5回姫観音並びに朝鮮人無縁仏追悼供養会・田沢湖畔及び田沢寺
- 1996年11月3日 第6回追悼慰霊祭・田沢寺姫観音供養会・田沢湖畔
- 1997年10月23日 第7回追悼慰霊祭・田沢寺姫観音供養会・田沢湖畔
- 1998年7月1日 『縁—朝鮮人無縁仏に捧げる』を出版
- 1998年11月18日 第8回朝鮮人無縁仏慰霊祭田沢寺と姫観音前
- 1999年3月2日～3月5日 韓国霊巖郡霊巖邑三湖里自宅にて先達発電所強制連行者曹四鈺氏と面談。秋田朝日テレビ伊藤玲子 DR と秋田県朝鮮人強制連行真相調査団事務局長、野添憲治氏と共に
- 1999年6月23日 NHK ラジオ深夜便「もう一つの強制連行」放送（午前1時15分～2時）
- 1999年11月11日 10周年記念第9回田沢寺朝鮮人無縁仏慰霊祭
「よい心の碑」建立
朴炳熙「平和の鳩」ブロンズレリーフ2点寄贈
墓地整理・全和風作「太陽と花」寄贈
- 2000年11月11日 秋田県田沢寺及び田沢湖畔姫観音法要
曹溪寺恵信師を始めとする韓国僧侶150名
- 2001年6月19日 秋田県田沢湖畔姫観音及び田沢寺朝鮮人無縁仏法要 韓国仏教会120名
- 2002年2月 田沢寺にて韓国仏教会法要100名
- 2004年10月2日 第10回田沢寺朝鮮人無縁仏追悼15周年記念慰霊式

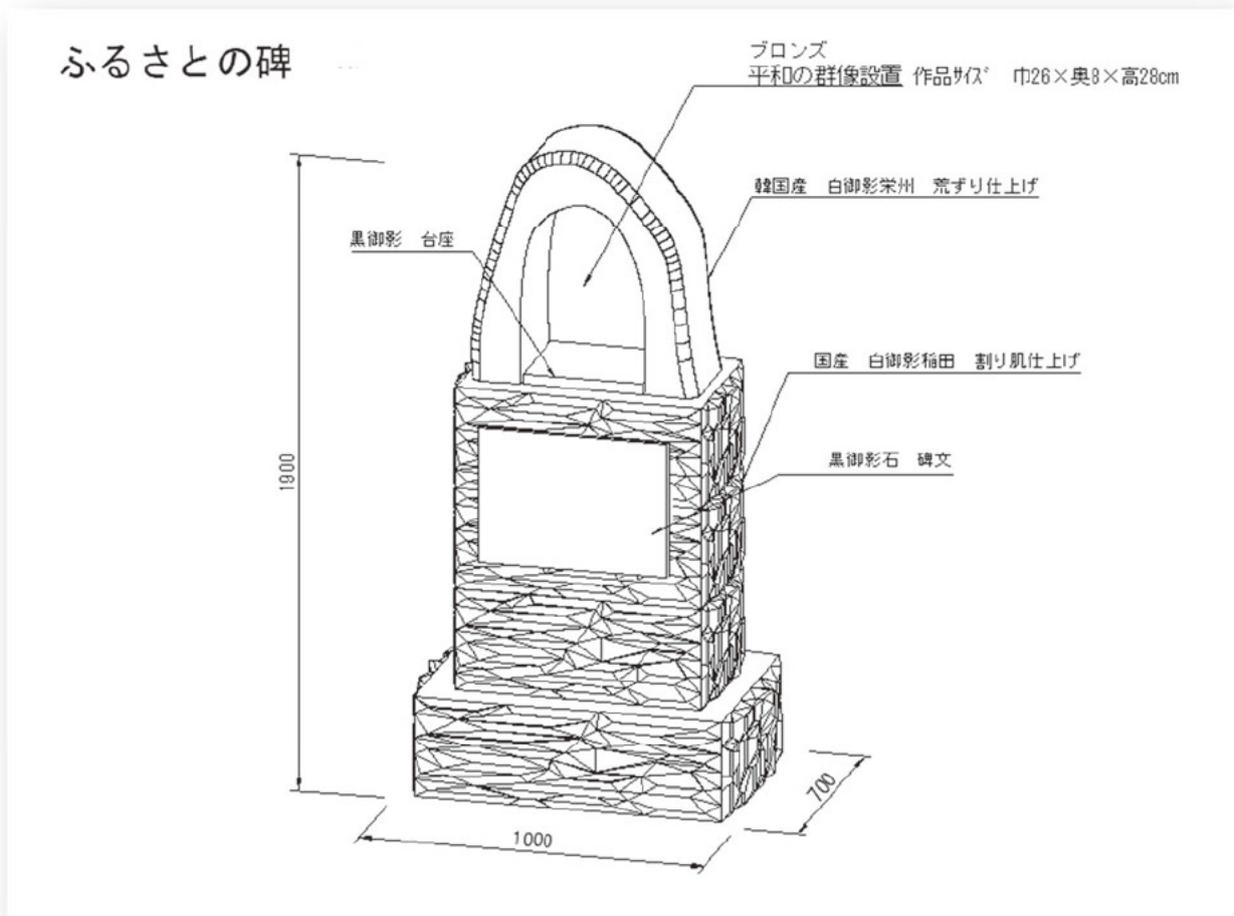
- 2015年10月12日 戦後70周年日韓国交正常化50周年記念第11回追悼慰霊祭
田沢寺姫観音供養会・田沢湖畔
田沢寺に四明張孝友作仏画2点を寄贈する。
- 2019年5月23日 田沢寺本堂に「仏光普照」の掲額修復納品
- 2019年11月10日 第12回田沢寺朝鮮人無縁仏追悼慰霊祭姫観音開眼80周年記念（主催・田沢湖姫観音像開眼80周年実行委員会）
- 2020年11月10日 第13回田沢寺朝鮮人無縁仏追悼慰霊および姫観音法要・清掃奉仕（仙北市民有志）
- 2021年10月28日 ふるさとの碑・平和の群像除幕（田沢湖畔・御座石にて）



姫観音

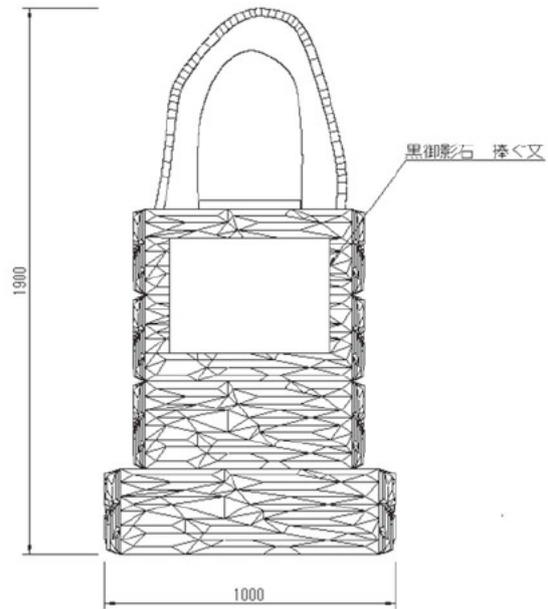
設計図

デザイン：河正雄
施工：有限会社 関戸石材

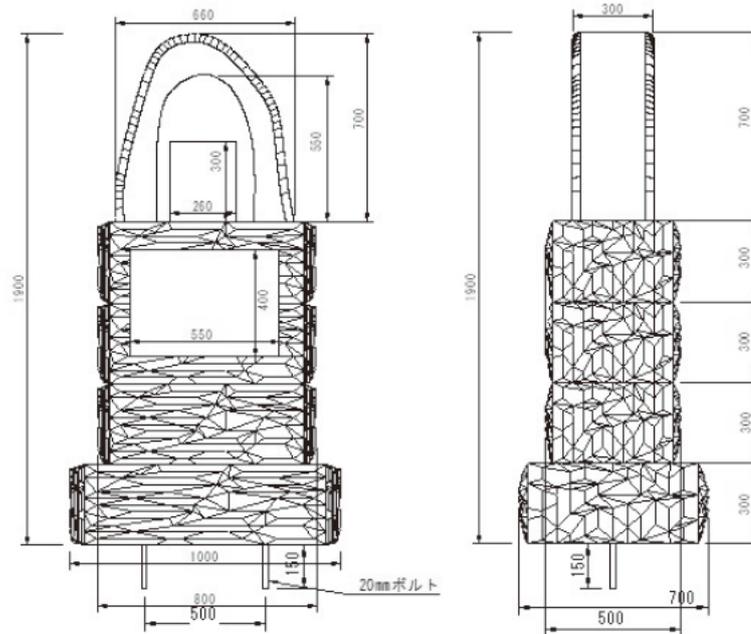


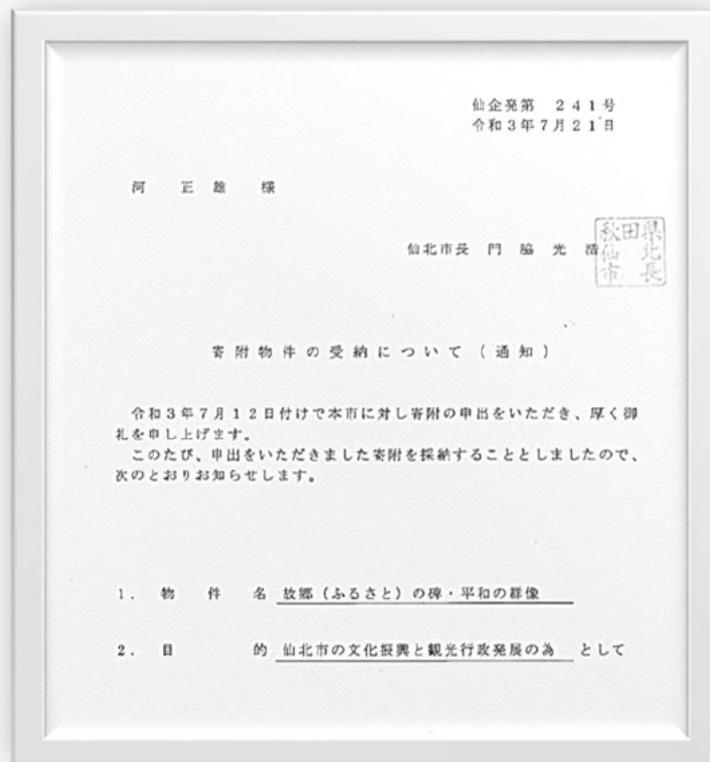
ふるさとの碑

裏面

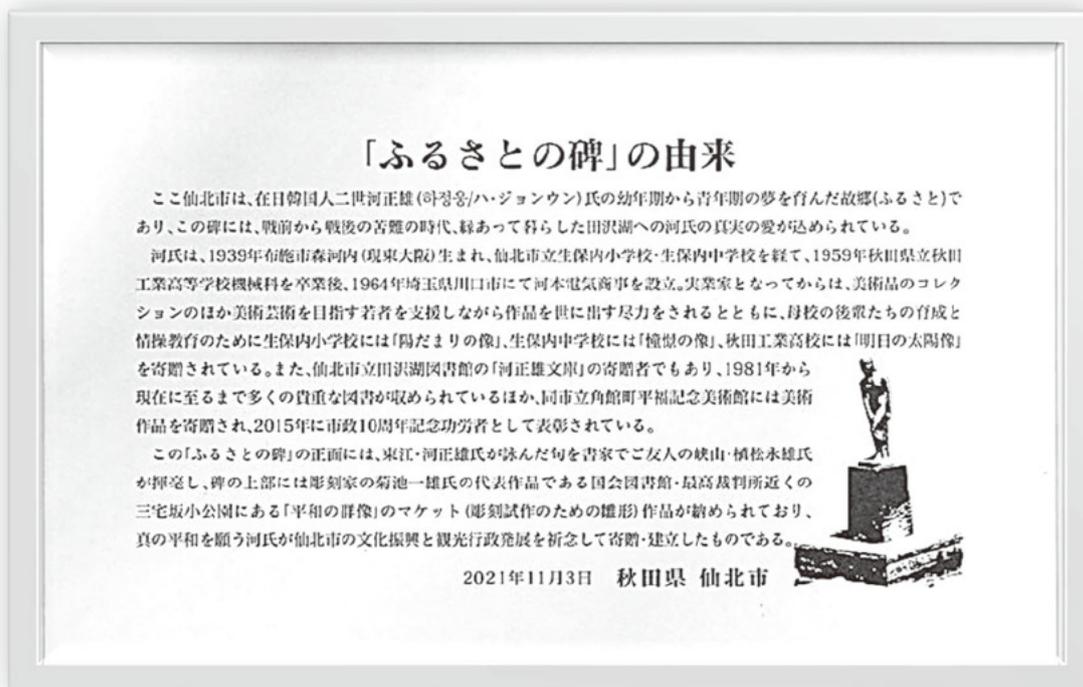


平面図 側面図





寄附物件の受納通知 (仙北市)



「ふるさとの碑」の由来 案内板 (仙北市)

信不信を選ばず 浄不浄を選ばず 甦る

河 正雄

—ふるさと（故郷）の碑・平和の群像建立—

1985年4月20日、田沢湖町観光協会の呼びかけで田沢湖姫観音の供養祭が初めて執り行われた。参席した私は、1981年に田沢湖町の手で建てられた姫観音像建立由来の案内板の文面に疑問をもった。そこから真相糾明の調査が始まった。それ以来、かれこれ37年になる。

1991年に田沢寺に保存されていた「姫観音像建立趣意書」を発見し、生保内発電所建設工事に伴う工事犠牲者の供養が観音像建立の趣旨であったことが明らかとなった。そこで、姫観音像が建っている脇地に慰霊のための「よい心の碑」建立を計画した。

田沢湖町よい心の会会長の佐藤勇一氏と自然石を捜しに岩手県まで足を伸ばしたが、なぜか佐藤氏が消極的になってゆき、計画は頓挫した。姫観音像建立地が町有地で許可が難しいからとの理由であった。実は反対する町の人達がいたというのが真相であった。

田沢寺墓地の「朝鮮人無縁仏慰霊碑」建立地内に、1999年「よい心の碑」を建立し慰霊祭などの慰霊活動を継続して来た。しかし未だに姫観音像建立由来の案内板はそのまま、私の心のわだかまりは晴れなかった。いつの日か姫観音像建立の趣旨に添い犠牲者を慰霊するための碑を建立したいとの想いを秘め、構想を温めていた。2021年に入り、朝に夕に頭をもたげることは姫観音像慰霊への想いであった。

私はそのモヤモヤを吹っ切るために意を決し、門脇光浩仙北市長に書簡を送った。

門脇光浩仙北市長様

新型コロナ禍中での御公務に御慰労申し上げます。貴市の人材登用施策は、先駆的で頼もしい限りです。何時も私事につき格別なる御厚情を頂き感謝しております。

つきまして30年前、姫観音のところに「よい心の碑」を建てる計画を致しましたが叶わず、田沢寺にその碑を10年後に建てた経緯を御存知かと思えます。それ以降、別紙のような「ふるさと（故郷）の碑・平和の群像」を建てたいと構想を温めて参りました。

82歳という年齢、心臓病の体調、余生の時間を考えての想い余ってのお伺いです。設置場所は姫観音のところか、「平和の群像」ですから新庁舎又は美術館のところなど、何処か生きる場所があると思えます。御検討下さり、お受け下さる余地があるか、可能性があるか御返事頂ければ光栄です。

余地と可能性があるならば具体化のため御面談賜りたく存じます。

貴市の御発展と市長様の御健康を祈念申し上げます。

2021年3月14日 河正雄拝

追って市長から返信があり、2021年4月9日に面談が叶った。その席で市長から「クニマス未来館のところはどうか、見て下さい。」と提案された。同席していた小学生時代からの同級生である安部哲男先生からは「田沢湖駅前の広場はどうか。広場から100mも行かない場所で河君は20歳まで住んでいた。想いも強いだろうから。」と思いがけぬ場所の提案があった。

その時、市長から駅前の空地は市のイベント空地で難しいと示されたが、その2ヶ所を千葉俊成クニマス未来館館長が案内された。どちらも優劣付けることが出来ぬ思いのこもった適地であった事は奇跡にも思えた。帰宅後、市長宛に所感を送った。

門脇光浩仙北市長様

吉兆の名残雪の歓迎を受け幸いでした。御公務御多用のところ御面談下さり有難く思いました。

30 数年来の思いが辿り着いた所が教育館であり、歴史館であるクニマス未来館。その対岸は姫観音を拝する適地でした。どちらの場所も先見性があり裁断下されば光栄です。

御面談時に今年中に設置したい旨申しましたが9月中に作品完成、10月には設置完了したいという考えです。出来ますれば4月末頃まで決定があれば予定通り進行出来るものと思います。よろしくお願い致します。

2021年4月10日 河正雄拝

そして安部先生にも協力を願う便りを送った。

安部哲男先生

「我見たり 田沢の湖(うみ)の 国鱒を 奇蹟起れと 名残雪舞う」(2021年4月9日 クニマス未来館にて詠んだ短歌)

貴君の田沢湖駅前、市長さんのクニマス未来館案、どちらに決まっても奇跡です。対案したデザインはどちらにも座ると思います。A、B案のどちらかを決めて下されば感謝します。

2021年4月12日 河正雄拝

一ふるさとを田沢と呼ばん彼岸花一

「故郷の碑」の碑文は「ふるさとを 田沢と呼ばん 彼岸花」である。1990年、「朝鮮人無縁仏慰霊碑」を田沢寺に建立した時、その碑に刻んだ私が詠んだ俳句である。この句には故郷に寄せた愛と、私の死生観、天国の御霊への感謝の心を込めている。安寧なる世、平和への希求、万人が念願する普遍の祈りの心と魂を詠んだ。碑の裏面には以下の文言を刻んだ。

捧ぐ ふるさとの碑

碑文の句はふるさとの幸いを願い
平和を祈る愛と感謝で鎮魂込める
神仏よ光り普く照らせたまえ甦れと
祈祷する誠心の詠歌であります

銅像 「平和の群像」 菊池一雄

書 峡山 植松永雄

東江 河正雄

二〇二一(令和三)年十一月三日建立



田沢湖の神魚クニマスは戦時中に不幸な運命を辿り絶滅した。田沢湖がいつの日にか再生、復活し甦ることを念願し未来に託してクニマスを慰霊する心をも吟じている。

「故郷の碑」に菊池一雄作「平和の群像」を添えたのは平和を祈念し幸福を希求するシンボルとして私の生涯の祈願でもあるからだ。「平和の群像」は「湖畔の乙女像」にイメージが連なる縁深い作品である。1957年、秋田工業高校2年生の旅行で、十和田湖畔に建っている高村光太郎作の「湖畔の乙女像」に見とれた。その感動が1963年の新婚旅行へと繋がり、妻とその思い出を共有する永遠のブロンズ像となったのである。

戦後の代表的具象彫刻家菊池一雄は広島平和公園の折り鶴で有名な「原爆の子の像」(1958年作)の作者であり、第一高等学校時代から藤川勇造(1883年-1935年)に学び、1936年にはフランスに留学してシャルル・デスピオ(1874年-1946年)らに師事した。1939年帰国し、翌年「新制作派協会」会員となり東京芸大、京都市芸大で教鞭を執った。

戦前、千鳥ヶ淵の三宅坂小公園に「寺内元帥の像」が建っていたが、1951年にその台座の上に電通の依頼で制作した「平和の群像」は菊池一雄の代表作となった。その正式名称は「広告人類頌碑」であり、ギリシャの三美神に着想を得て「愛情・理性・意欲」を象徴する三体の「美神」を作品にしたものである。「故郷の碑」に添える「平和の群像」は、そのマケット作品で、新日本甦りを生命の息吹を感じさせる私にとっては秘仏のような作品である。

2018年10月27日、山梨県甲府市にお住いの書道家、峡山・植松永雄氏が田沢湖を訪問された。田沢寺の朝鮮人無縁仏慰霊碑に刻まれた私の句、「ふるさとを 田沢と呼ばん 彼岸花」を読まれ、「河正雄さんの故郷を訪ねることが出来て永年の夢が叶った」と哀惜の情を示され、それが「故郷の碑」の揮毫に繋がった。杵に囚われることなく、境界を越え舞わんばかりの伸びやかでしなやかな筆致、祈りの境地に至る書である。

提案した故郷の碑 A 案のデフォルメは人間の姿、形である。人間性と人格を表すデフォルメを「○△□」を基本としたデザインである。文字が生まれる前の時代から「○△□」のデフォルメを人間は哲学として学んでいる。昭和、平成、令和と私が生きた時代はその時代が求めた和の時代の希求であった。戦争のない平和な社会、幸福な世の具現をひたすら念願して生きた。和こそ知恵であり尊い。丸くなれと和の象徴を「○」で表す。傷つけ合い、刺々しい。人の世はとかく争いが多い。破廉恥で破滅の世相を「△」で表す。学び、少しずつ角を取ろうではないかと人間の努力と精進を「□」で表す。「○△□」は美術表現の基本の形、哲学であり知恵の源である。

故郷の碑 B 案は五重塔をイメージする五層（五段）。上野公園の王仁博士碑に倣って上層は韓国産栄州石、下層四段は国産の稲田石を割り肌仕上げ。碑文は峡山・植松永雄氏の揮毫による「ふるさとを 田沢と呼ばん 彼岸花」である。

B 案碑のデフォルメは A 案の思想哲学を基にデザインしている。故郷の人々の平和を希求する祈りが山懐にこだまし宇宙に響いているイメージを「平和の群像」を据え描いた。数点のデザインの中から碑立地の環境や条件などが勘案され、調和という点で B 案に行き着いて採用された。

—散華の祝福—

2021年4月21日、クニマス未来館館長からメールが届いた。「故郷の碑・平和の群像」モニュメント設置予定地の資料であった。具体的に提示された場所はクニマス未来館の駐車場脇にある直木賞作家千葉治平の詩碑と蚕魚墳塚の間に設置する案であった。2週間前に訪問した田沢湖は名残の吹雪であった。その場所の桜が五分咲きの美しい情景になっている写真が添付されていた。穏やかさと静けさの中にある田沢湖畔大沢部落の春景色は桃源郷のような世界に見えた。これまで目に焼き付いていた田沢湖のイメージを一新したノスタルジックな絵の世界であった。

翌22日、設置場所の確認の為にその現場を訪れた。静寂なる田沢湖は空と一体になって広がり、対岸に姫観音像を臨むことが出来て思わず合掌した。かつての大沢部落はクニマス漁の盛んな豊かな郷であったのだ。昔日の幸せな営みが懐かしく回想される。臉に涙が滲み流れるのは何故だろうか。「故郷の碑・平和の群像」が辿り着いた喜びを散華の祝福のように思えた。

千葉俊成・田沢湖クニマス未来館館長様

昨25日よりコロナ災禍の為、第3回目の緊急事態宣言発出、又々息苦しい日々となりました。善は急げとばかり22日に田沢湖駅のお迎え、クニマス未来館での応対、そして田沢湖駅の送迎を受け密なる仕事を成したことを喜びます。貴下の真心と誠実さを感じ入り、心打ちました。貴市が私の心と想いを真摯に受け止めて下さった賢明さと英知に敬意を表します。密なる貴下応対の3時間は私の82年の人生の全力を捧げた貴重な時間でありました。そのチャンスを与えて下さった貴市に感謝を申し上げます。

何事も「無理を通せば道理が引っ込む」という諺があります。「道理」を守り導かれますよう、お願い致します。私の心と想いが安寧に貴市へ届きますよう祈念致します。

2021年4月26日 河正雄拝

—再検討—

こうして事前の協議が整ったので「平和を祈念し姫観音建立 82 周年を記念して仙北市の文化振興と観光行政発展の為に仙北市に『故郷の碑』を寄贈します。」と寄付申し出書（5月31日付）を提出したところ、2021年6月10日に門脇光浩仙北市長から「住民の反対があったので時間を少し頂きたい。」との連絡があった。追ってクニマス未来館の千葉氏からメールが届いた。

田沢湖クニマス未来館の千葉です。御連絡が滞り、誠に申し訳ございません。

この度の説明会の結果につきましては、正直、残念至極でなりません。河先生のお気持ちを考えると胸が痛みます。本日朝には、市長、副市長と今後の対応等について確認を行い、その旨を安部先生のところにご報告に伺いました。

いずれ、市としては、「故郷の碑」の建立場所を再検討することにしておりますので、引き続き、力不足ながら私に対応させていただきたいと思います。この度の結果を心からお詫び申し上げます。

私は「2021年6月14日付メールありがとうございます。清里での行事（別紙記事）がありましたので本日15日に読みました。残念至極、胸が痛むとの言葉に心情を感じ入りました。お詫びには及びません。どうか心を休めて下さい。再検討との事、『無理を通せば道理が引っ込む』の哲だけは守って轍（てつ）は踏まないで下さい。新たな展開の報、お待ちしております。」と返信したが、何故なのか自責の念に襲われた。何故そのような心持になったのか自問しても答えが出ず悶々としている所へ、7月2日に安部先生から FAX が届いた。

河氏寄贈の件に関してのドタバタ劇にはがっかりで何を恐れ、何に不安を感じているのか、私には理解できません。それでも市当局なりに努力していることを認め長い目で見ていこうと思っています。待てば海路の日和ありで、思いは必ず実現することを信じています。

担当されている千葉さん、斎藤さんの誠実な努力に期待したいと思っています。「向日葵の夢の始まり 小さき芽」。今の私は肥料であり水でありたいと思っています。

コロナ予防接種1回目終わりました。お互いに健康第一でがんばりましょう。

私は安部哲男先生に7月3日付 FAX で返信した。

私が2021年5月31日に「故郷の碑・平和の群像」寄付申し出書を提出した件で、門脇光浩仙北市長より6月10日電話にて「住民説明会の結果、住民から反対があった。怒らないでください」とあった。また6月14日付のメールにて「この度の説明会の結果につきましては正直、残念至極でなりません。」と千葉俊成田沢湖クニマス未来館館長よりあった。残念至極ではありますが静観しておりました。安部先生から7月2日付 FAX で「何を恐れ何に不安を感じているのか私には理解出来ませんとあり、お心を患わせ痛み入ります。指摘の恐れ、不安は業ともいえる癒し難い感情で、根にある闇は深いものであると私は理解出来ます。「信不信を選ばず 浄不浄を選ばず」「和を以って尊し」の精神で蘇りを期待するのみです（熊野権現の奥儀）。「仏造って魂入れず」がこの件の始末と私は理解しております。友情に感謝しております。

—報告する幸せ—

7月9日に朗報が届いた。「この度、別添のとおり「故郷の碑」の設置場所が決定いたしました。場所は、ここクニマス未来館の丁度対岸にあたる御座石になります。門脇市長と一緒に御座石神社の宮司様にご説明し、相内潟集落の皆様にも別添の資料にて個別訪問し、ご了解をいただきました。

いずれ、御座石駐車場として整備されており、茶屋やトイレもあることから、観光客の皆様の目に触れていただく機会が年中あります。また、今は遊覧船が発着しませんが棧橋が残っており、景観も申し分ありません。設置予定地はあくまで市側の案です。」と千葉俊成・田沢湖クニマス未来館館長からメールが届き、諸々と紆余曲折はあったが御座石に収まる事となった。

7月12日には仙北市長と再度面談し最終確認を済ませ、10月28日の除幕に向けて歩みを進めることとなった。

1970年刊佐々木由治郎著『田沢湖と周辺』より御座石の由来を紹介する。

御座の石とは高鉢森の裾が、凝灰岩の広い岩盤になって湖の中に突き出し水際から断崖状のまま一気に水中に消えている。旧藩時代、藩主佐竹義隆公が田沢湖を巡覧した時、この岩の突き出たあたりに休息されてから、この周辺を「御座の石」と呼ぶようになった。藩主佐竹義和公が来遊した時の紀行文「千町田の記」の中にも、この景観を「一湖波平らかにして景勝奇観、中々筆端に尽すべからず」と述べている。

御座の石神社の縁起によれば、凡そ600年前（室町時代）に熊野権現を信心し、諸国を巡錫していた修験者が、この地を選んで水想観の奥儀を得るために小祠を建てたと伝えられる。下って慶安2年に藩主佐竹義隆公が休息した岩の辺りに祠を建てたのが御座の石神社の始まりといわれ、其の後社殿は天保四年と慶応3年と明治16年に改築され、当時は水かさが増すと浮見堂になる建物であった。

明治44年に、周辺4ヶ村の協力で湖畔の神社を合併して社殿を道路上手に新築し、それを大正2年に改築し、更に昭和38年に改築したのが現在の社殿である。もとは竜神社であったといわれるが、明治44年に竜湖姫之神、綿津見神、大国主命に佐竹義隆公、義和公を祭神に加えた。

この報告を行える幸せは熊野権現様の加護と導きあればこそと感謝するのみである。神仏にも慶んで頂ける慶事を関係者及び、多くの方々と共有し分かち合いたい。

—「ふるさとの碑」の由来—

ここ仙北市は、在日韓国人二世河正雄（ハ・ジョンウン）氏の幼年期から青年期の夢を育んだ故郷（ふるさと）であり、この碑には、戦前から戦後の苦難の時代、縁あって暮らした田沢湖への河氏の真実の愛が込められている。

河氏は、1939年布施市森河内（現東大阪）生まれ、仙北市立生保内小学校・生保内中学校を経て、1959年秋田県立秋田工業高等学校機械科を卒業後、1964年埼玉県川口市にて河本電気商事を設立。実業家となつてからは、美術品のコレクションのほか美術芸術を目指す若者を支援しながら作品を世に出す尽力をされるとともに、母校の後輩たちの育成と情操教育のために生保内小学校には「陽だまりの像」、生保内中学校には「憧憬の像」、秋田工業高校に「明日の太陽像」を寄贈されている。また、仙北市立田沢湖図書館の「河正雄文庫」の寄贈者でもあり、1981年から現在に至るまで多くの貴重な図書が文庫には収められているほか、同市立角館町平福記念美術館には美術作品を寄贈され2015年に市政10周年記念功労者として表彰されている。

この「ふるさとの碑」の正面には、東江・河正雄氏が詠んだふるさとの句を書家でご友人の峽山・植松永雄氏が揮毫し、碑の上部には彫刻家の菊池一雄氏の代表作である国会図書館・最高裁判所近くの三宅坂小公園にある「平和の群像」のマーケット（彫刻試作のための雛形）作品が納められており、真の平和を願う河氏が仙北市の文化振興と観光行政発展を祈念して寄贈・建立したものである。

2021年11月3日 秋田県仙北市



姫観音像建立趣意書 (仙北市田沢湖田沢 田沢寺所蔵)

夫れ菩薩の誓願は衆生の抜苦與樂なり。衆と共に樂土建設に不退転なり。自らは仮令苦界に沈淪すとも他をして安養土に渡ししめ玉ふなり。顧るに田沢湖の主となれる往昔の辰子姫は自己一身の美貌を保持せんが為め観音菩薩に祈願を籠め遂に永久不変の龍身に化し入水して湖神となれりと伝へらる。是れ即ち女性の矜持する微妙なる心術の発露にして寧ろ同情に値ひするものありと雖も現代の文明思潮より観ずれば、甚だ遲疑退屈に屈したるの感に堪はず。今や国を挙げて新東亜の建設途上に邁進しつゝありて、外には大陸の開発あり、内には産業の拡充あり。苟くも八紘一宇の大理想下には、往昔の辰子姫の如き小乗の自己満足に墮在すべきにあらずして、宜しく大乘的の日本精神を發揮し、以て国策に順応すべく、宛かも菩薩道の修行に不退転なるが如く、勇猛精進寸毫の懈怠あるべからざるなり。此の時に方り、昭和十一年、我が東北を打して樂土たらしむべく東北振興会社並に東北振興電力株式会社の創立あり。随つて同十二年、田沢湖生保内発電所建設工事着工さる。同発電所は玉川の水流を田沢湖に導入し湖をして一大貯水池たらしむるものにして、斯の水漸次湖水と混淆するに至らば、由来其の清明澄徹を世界に誇り来りし麗水を保ち難く、忽ち變じて汚濁化せらるゝを免れざるべく、湖水の主たる辰子姫の寤苦難たる洵に察するに余りあるなり。然りと雖も我等は辰子姫の叡智と聰明とを知るが故に、此の際、姫は必ずや従來の消極的進上を精算して一躍大乘菩薩道を悟入し、自らは縦合無量の苦難を受くるとも、衆生に安養福利を施與し得べき斯業の開発成就を誓願せらるべきことを確信するものなり。茲に於て乎、我等は湖畔の適地を相して姫観音の尊像を建立し、其の応現の威神力を如意ならしめんと發願するに至れる所以なり。近時湖水の異変頻々として起り、巷間又之れに関連して種々の憶測を為し、流言飛語、近郷の人心を惑亂し、甚だ穩かならざるものあるを聞く。若し徒らに其の妄語邪説の流布を放任するときは、郷土伝來の信仰を破壊し延いて自暴自棄の儒民を生ずるの危惧なしとせず。是れ即ち顯明なる姫観音大菩薩の円通自在の妙智力を具現すべき尊像を建立する大旨にして只單に民衆の信心を安定し以て国運の發展に資すべき核事業の振興成就を祈念して止まざる所なりとす矣。

昭和十四年五月

附 言

本観音像建立成を告げ、其の開眼式を行ふ時に際しては、各会社の従業員関係者にして其の職に殉じ貴き犠牲となりたるもの、追悼慰靈の甲会式をも施行して其の冥福を祈らんとするを以て、茲に併せて之れを附言す。

榎湖仏教会 印

發願主 才田鼎 鉉
菅原宗展
杉村祥雲
森澤正頼

ふるさとを 田沢とよばん 彼岸ばな

河 正雄

私は戦後、秋田県田沢湖町の生保内中学校で学び遊んだ。戦前戦後の生活は厳しく貧しかったが、中学生生活は我が人間形成の源で、楽しく思い出深いものであった。師に恵まれ、友に助けられ、なんといっても自然の雄大さとその美しさは誇りであった。恩師の教えは社会生活の指針となり、苦しいときの励み、忠実にその教えの道を歩んで、生きて生かされた喜びは形容しがたい。

1986年、中学校の校舎が改築され、目を見張るような近代的で立派な校舎に生まれ変わった。私はその喜びから、報恩と感謝の気持ちを込めて、記念のブロンズ像「憧憬の像」を贈る機会を与えていただいた。「憧憬の像」を設置、製作する仕事を請け負ったのが、「田沢湖町よい心の会」会長の佐藤勇一氏で、その出会いが縁となった。

私は、「よい心で像を贈りました。佐藤さんもよい心で立派なものを作ってください」と頼んだことが、心を通いあわせた。佐藤さんや周りの人々のハートを結んだ一つの言葉「よい心」。ほのぼのと、もどかしげに心をくすぐる。しまい忘れかけたような懐かしい響きは人々を和ませ、素直な初心に帰らせる。「よい心」は、優しさと思いやり、親しみと信頼の温り、そこに喜びと幸せがある。校庭の緑と花のなか、校舎と秀峰駒ヶ岳を仰ぐ位置に、良い心の象徴「憧憬の像」が除幕された。その日、「田沢湖町よい心の会」は友情の輪となり生まれたのである。

1939年、第二次世界大戦勃発、世界に暗雲駆けるこの年に、私は大阪で生まれた。翌春、父母は秋田県田沢湖町（当時は生保内）の叔父を頼って先達の飯場に入った。父は馬車の荷役、母は砂利採取、セメント運びであったという。そのとき私は母の背で、何ごとも知らず眠っていた。

5歳頃の記憶である。住居（先達飯場）は通路より低い堅穴式のような粗末な掘建小屋。凍てつく日には、その階段で滑ってよく転んだ。箆の戸は見すばらしく、粉雪の舞う日は吹き込んだ。藁の布団はむず痒く、寝心地悪かった。私の安らかな眠りは、屋根裏の隙間から輝く、きらめく満点の星々を見取って夢を誘った。

父は、亡くなる前の数年間、しきりに生まれ故郷（韓国全羅南道霊岩、王仁博士生誕の地）に帰って田圃を耕し、余生を静かに暮らしたいと、望郷の思いを募らせた。そして戦前の、先達や高野での生活、田沢湖導水工事、先達や生保内発電所工事に係わる苦しい労務生活のこと、悲惨で哀れな同胞達の生活を思い出しては涙をぬぐい語った。厳格で威厳のあった叔父は、近寄り難い遠い存在であった。その叔父も父と同じく、亡くなる数年前から私を近くに寄せては、繰り返して語った。

「お前の父母も苦勞し、気の毒であった。あの工事には多数の朝鮮人が、タコ部屋で強制労働をさせられた。緊急な国策工事ということで、落盤や発破事故、飢えと寒さのなかの苛酷な重労働や病気などで、不幸にして亡くなった方々が多かった。飯場（タコ部屋）からの逃亡者は後をたたなかつた。逃亡者のほとんどは生保内駅（現田沢湖駅）で捕われ、見せしめの拷問を受け、瀕死の同胞のその後の行方は判らない。」



田沢寺

叔父は決まって、忘れまいかのように、亡くなった同胞の名をよんで、指を折った。叔父は、朝鮮人労働者の現場監督の任にあったようだ。自分の力では同胞を助けることすらできなかった当時をふり返り、「可哀そうであった、無念であった」と、悔悟するかのように涙するのであった。「どこにどう眠っているのだろうか」と、しきりに霊の安否を気づかい、私に何かを訴えているかのようにであった。

私は父母の故郷、韓国光州広域市に盲人福祉会館を建立する仕事をした。1981年光州で世話になった盲人とのふれあいが縁であった。8年間にも及ぶ遠い道のりを経て、1989年春完成、韓国の盲人福祉に寄与できたことを喜んだ。その間にも、私の脳裏から離れることができなかったことは、生前、父や叔父が語った我が同胞の霊の安否であった。

私はその10年も前から、朝鮮人の無縁仏がどこか田沢湖の周辺に、人知れず眠ってはいないだろうかと捜し歩いた。そして3年前、田沢の伊藤幹男氏との出会いとなったことがご縁となった。

「幼いときに、亡くなった祖母から、田沢湖導水工事には多数の朝鮮人労働者が強制的に働かされた話を聞いた。当時、食料難から我が家の畑の作物や鶏まで被害を受けた。しかし祖父は、朝鮮の方々に対しては親しく接した。彼らは終戦のとき、マンセイ、万歳と喜び、別れるときには涙して別れを惜しんだという。田沢寺にいけばきっと何かがわかるだろう。」と案内してくれた。

伊藤氏は、田沢寺に近い彼の生家やその畑、また朝鮮人労働者が多く住んだと思われる、私が幼き時に父母と暮らしたと思われる、50年前の住居や工事飯場跡を案内してくれた。そこはうっそうと茂るジメジメした秋田杉の林の中。傾斜地を下ると玉石がゴツゴツと重なった川原で、水の流れが早い先達川であった。林の中には住居跡の敷石がそのまま残っており、その敷地の中に墓石のような苔むした石が並んでいるのを見たときは、もしかしたら無縁仏の印ではないかと思ったとたん寒けが襲った。

夏草が茂り、静まり返った荒涼たる風景には、昔の面影は何一つなかった。その当時に生きて蠢いた人々の生活の臭いや疼き、嘆きが私の胸に木霊し、込み上げる感情を押さえることが出来なかった

中学・高校時代、夏休みになると親友の直木賞作家、西木正明君とよく森林トロッコに乗って、玉川や、八幡平へ遊びにいった。その懐かしい森林軌道跡を通して朝鮮人労働者が働き掘ったという、田沢湖への導水路の隠道入口に案内されたときは身がすくみ、息をのんだ。

人里離れた山深い隔離された辺境の地、不気味な瑠璃色をした轟々と流れる水の勢いをみてみると、吸い込まれそうで恐ろしくなった。ここで何があったのか。ここで何の不幸があったのか。流れは何も答えてくれず、ぞくぞくする身の震えだけは、しばし止まらなかった。

田沢寺の小高い丘、笹藪や、雑草が茂る雑木林に案内され、「ここが朝鮮人の眠る二つの土饅頭のあった所」と、田沢寺・菅原宗美住職は指さし説明された。そこにはお墓のゴミなどが捨てられていたので胸が疼いた。

周囲は荒れて、墓基は形状すら確認出来ぬほどに風化し、雑草の中で土と化していた。半世紀もの間、この寂しいところに人知れず眠っていた同胞の霊跡の前に立ち、我が身を支えるに精一杯であった。お酒を捧げ、回向の読経のなか、焼香を終えたとき、ここに辿り着くまでの道のりの切なさが込み上げ、締めつけられるように苦しかった。

寺の過去帳を紐解くと、3人の「半島人」の記載があった。この地球に「半島人」たる民族が存



「ふるさとを 田沢とよばん 彼岸ばな」
(河正雄作)の俳句が刻まれている朝鮮人
無縁佛慰霊碑＝田沢寺

在した歴史を、私はこの目で確認した。身を切られるほど切ない思いで、過ぎ去った暗く不幸な時代を恨んだ。二つの土饅頭は、この「半島人」の無縁仏なのだろうか。無縁の仏が何人埋葬されているのか、寺には何も記録はない。記録がないのが記録になっている。二つの哀れな土饅頭の中に眠る無縁の仏に、私はひたすら合掌するのみであった。

戦時の困難な時局、暗黒の時代の背景のなかで、朝鮮人の無縁の仏を葬り、供養し、言い伝えて下さった田沢寺、そして先代の菅原宗展住職に対して、私は厚く感謝を捧げ、寺を辞した。

「よい心の会」は、朝鮮人無縁仏の追悼慰霊祭を、1990年9月23日の彼岸の中日に田沢寺で行なうことになった。そして、無縁仏が眠る場所に慰霊碑を建てることを決めた。その碑文を「河、書け！」との佐藤勇一会長の命令が下った。絵心と作文だけこなしても、「書」だけは小中学校以来たしなみがない。油汗が流れる思いで購踏し、すぐには書く自信がなかった。

慰霊碑のまわりにはムクゲの花＝無窮花（ムグンファ 韓国の国花）とスモモの花（北朝鮮の国花）を植樹し、霊を慰めようと決まった事から、句を読み書く決意ができた。慰霊碑の正面に「朝鮮人無縁仏慰霊碑」と。碑台には「無窮花・ふるさとを 田沢とよばん 彼岸ばな」と刻み、田沢湖を望む墓地の小高い丘に慰霊碑は建立された。

過去の不幸な歴史に翻弄され、悲しい運命を余儀なくされた我が同胞、無縁の仏たちよ。望郷の思い切なく、痛恨の思い深く、辛く悲しくとも、縁結びしこの地を永住の地と定め、霊安らかに眠り給えと祈る。無窮花（ムグンファ）よ。彼岸の彼方の無縁の霊を、いつまでも優しく見守り語りかけ、慰め給えと祈る。

私は慰霊祭に於て謝辞を述べた。

「温故知新」。本日は「故きを温ねて 新しきを知る」慰霊祭でありました。

田沢湖町当局、地元の皆様。駐日韓国大使館公使鄭亨壽様。秋田さきがけ新報社論説委員長渡部誠一郎先生を始めとする各界各層の皆様。そして私の尊敬する恩師。秋田県の民団や総聯の同胞の皆様。直木賞作家・西木正明君を始めとする友人の皆様。公私御多用の中御参席下さいましたこと、厚く厚く御礼を申し上げます。

この1世紀、私共は辛く暗い時代を過し、生きて参りました。去る5月盧泰愚大統領が国賓として日本を訪問された時、天皇陛下はこの過ぎし不幸な時代を「痛惜の念を禁じえません」と述べられました。そのお言葉に対し盧泰愚大統領は「我が国5000年の歴史の中での一時期の苦難でありました。これからはその不幸をのりこえて21世紀に向け、良きパートナーとして善隣友好を一層深めましょう」と述べられました。

また彼岸の彼方の朝鮮人無縁の佛様からは「兄弟たちよ、争わず、信じあい、仲よく、平和で、豊かに、暮し生きるように」そして「祖国が一日も早く統一され、世界の人々から祝福を受けますように」と語りかけておるようです。

私達は、これらの言葉の重みを噛み締め、自省して、よい心、広い心、同じ心を通いあわせて、21世紀を創造、世界のため、人類のため貢献、寄与せねばならないと思います。

最後に手厚く朝鮮人無縁の霊を祭って下さいました田沢寺、本日の祭式を司って下さいました東源寺、東林寺の御住職様、そして田沢寺護寺会の皆様に厚く御礼を申し上げます。

また、慰霊碑建立にあたり多くの人々から多分なる篤志をお寄せ下さいましたことに深甚なる感謝を申し上げます。

本日お集り慰霊下さいました皆様方の御健勝と平安を祈って私の謝辞と致します。

(1998年7月1日 河正雄を囲む会発行 河正雄著『縁えにしー朝鮮人無縁仏の霊に捧げる』より)

菊池 一雄 (Kikuchi, Kazuo)

彫刻家で東京芸術大学名誉教授、新制作協会会員の菊池一雄は、4月30日心不全のため東京都港区の前田外科病院で死去した。享年76。

戦後の具象彫刻を代表する作家の一人であり、その流麗なモデリングによる作風で知られた菊池は、明治41(1908)年5月3日京都市上京区に日本画家菊池契月の長男として生まれた。第一高等学校文科在学中の昭和3年、藤川勇造について彫刻を学び、小林万吾の同舟社に通い石膏デッサンを学ぶ。翌年には創設された二科技塾で塑像をはじめた。同5年17回二科展に「トルソ」「カリスト君」が初入選。同7年東京大学文学部美学美術史科を卒業する。

二科展への出品を続け、同9年21回二科展に「A子像」で特待を受賞するが、翌10年故藤川勇造門下で結成された新彫塑協会に早川巍一郎らと参加し、翌年の1回展に「ミューズの女」などを発表する。

同11年渡欧、パリでシャルル・デスピオ、ロベール・ブレリックに師事、翌年のサロン・ドートンヌ展に「花束」が入選する。同14年帰国、翌15年5回新制作派協会展に滞欧作「ギリシャの男」「裸婦像」など4点を招待出品し、同会会員となる。同20年京都に転じ、同22年京都市立美術専門学校彫刻科教授に就任する。同23年12回新制作派展に「青年像」を発表、翌24年同作で第1回毎日美術賞を受賞した。また、同24年刊行した著書『ロダン』で、翌25年度毎日出版文化賞を受ける。同27年から51年まで東京芸術大学教授をつとめ、退官後同名誉教授となる。

この間、同30年に大作「自由の群像」(東京・千鳥ヶ淵公園)を完成したのをはじめ、「原爆の子の群像」(同33年、広島平和公園)「坂本龍馬・中岡慎太郎」(同37年、京都円山公園)、「海の男たち」(同45年、神奈川県三浦半島観音崎)、「平和の群像-あけぼの-」(同58年、高松市中央公園)などの記念像を次々に制作した。一方、日本国際美術展、現代日本美術展へも同44年まで制作発表、同42年には9回アントワープ国際彫刻ビエンナーレ展に出品した。同51年神奈川県立近代美術館と京都市美術館で退官記念回顧展が開催される。同57年10回長野市野外彫刻賞を「転生」で受賞する。同58年には、創設された本郷新賞の運営委員、選考委員をつとめた。作品は他に「坐」(同39年)「アトリエの女王様」(同50年)などがあり、作品集に『菊池一雄』(同51年)がある。



「平和の群像」の前に立つ菊池一雄(右)。左は吉田秀雄=『電通 一〇〇年史』より

(「菊池一雄」『日本美術年鑑』昭和61年版252頁より)

平和の群像（広告人顕頌碑）

菊池一雄作（1948年 ブロンズ 東京都中央区の三宅坂小公園）

■「平和の群像」

正式名称は「広告人顕頌碑」で建設者は電通。たまたま平和条約結成の年に当たり、これを記念して「平和の群像」と名づけられた。寺内正毅・元帥陸軍大将の騎馬像撤去跡を電通が購入、モニュメントとして東京都に寄贈した。1951年に建立された。

作者の菊池一雄は「平和の群像」についてこう語っている。

「屋外の公共の場所に建てられた裸婦像第1号である。建設時には裸体彫刻がおいせつでないことを区長や区議長に説かなくてはならなかった。皇居のお濠に面したこの裸像に不作法に対する避難や種々の平和運動への利用などで、この群像の建設後もしばらくは千代田区役所に迷惑をかけることが多かった。」



平和の群像（広告人顕頌碑）＝三宅坂小公園（東京・千代田区）



寺内元帥の騎馬像

「平和の群像」が建立された「三宅坂」は、かつて陸軍中枢の代名詞だった（現在の行政の中枢を「霞ヶ関」というのと同様）。三宅坂には参謀本部、陸軍省、陸軍大臣官邸、陸軍衛戍（えいじゅ）病院が連なり、まさに軍都東京の中心をなしていた。

その三宅坂に造られた寺内元帥陸軍大将の騎馬像だが、戦時中の金属回収に遭い撤去された。

寺内正毅（てらうち・まさたけ、1852年－1919年）明治・大正期の日本の陸軍軍人、政治家。山口県出身。軍人としての階級は元帥陸軍大将。「ビリケン宰相」の異名を持つ。陸軍大臣、初代朝鮮総督、内閣総理大臣などを歴任した。

騎馬像は北村西望作。「路面電車乗降のたびに胸が悪くなるから叩き壊せ」「ろくに手柄のない豚共に像など立てる必要などない」などという非難が相次ぎ、警視庁は厳戒態勢を敷いた。像は戦争中に金属回収に遭い溶解された。

（ウキペディアより）

—冷徹な知性と、人間的な愛情と、前途を開拓する勇気が重大な要素—

菊池一雄は『電通 66 年』の中で「平和の群像」の制作意図と心境についてこう述べている。

「私たちの新しい平和な生活は、冷徹な知性と、人間的な愛情と、前途を開拓する勇気が重大な要素になると考える。……しかし、私はこの場合にも、このような観念によって平和を説明づけようとは思わない。私の願うことは、この群像を見る人が無心のうちに人間的ななごやかさを感じとってくださることのみである」（『電通 66 年』）。

「大衆の心の強く美しく訴える平和の象徴でありたいということであった。この希求は、…。人間的な暖かい魂の平和というアイディアは、7月になって、理性を中心に愛情と意欲を象徴する3人の裸婦に結実した。1年たって、27（1952）年6月21日、菊池一雄は『平和の群像』の全面に、鳩と花輪を抱く二人の子供の像を配して、なごやかな柔らかなトーンをいっそう漂わすことにした。この平和日本のシンボルは、東京の名所になったばかりでなく、世界のマスコミがこれを報じ、観光客もこれを仰ぎみて、日本の平和の姿を胸に刻んでいる。」（『電通 66 年』）

「〈広告人顕頌碑〉選考委員の一人、馬場恒吾（※）は祝辞のなかで次のように述べている。『…軍閥の銅像があったこの場所に、平和を象徴する女性の群像が建設されようなど、いったい誰が予想したであろうか。…この平和の群像は、新しい日本を示すものである。新日本を守らなければならない。したがってわれわれは、この平和の群像を守らねばならない…』（1951年5月1日の除幕式で）」（『電通 66 年』）

※馬場恒吾（ばば・つねご、1875-1956年）は、日本のジャーナリスト・政治評論家・実業家。ジャパントイムズや国民新聞などで自由主義擁護の論陣を張る。



平和の群像

原爆の子の像

菊池一雄作（1958年 ブロンズ 広島市平和公園 台座設計：河辺陽）

「このモニュマンの建設地、平和公園の原爆資料館が人間性の喪失の記憶であるのに対して、こもモニュマンは原爆を乗り越えた未来における人間性の回復の表現を意図する。モニュマン建設の動機となった原爆少女と千羽鶴の物語から、空には鶴が舞う日本古来の伝説的仙境蓬莱山を連想する」（菊池一雄の言葉）

■碑文

（表）

これは ぼくらの叫びです
これは 私たちの祈りです
世界に平和を きずくための

（裏）

原爆で亡くなった兄妹
の霊をなぐさめ世界
に世界を呼びかける
ために広島市小・中
高校の子供が結集し
全国の友達の支援の
もとにこれをつくる

一九五八年五月五日
広島平和をきずく児童生徒の会



原爆の子の像（写真提供：広島県）

■説明文

原爆の子の像

建立者：広島平和をきずく児童・生徒の会

制作者：東京芸術大学教授 菊池一雄氏

この像は、2歳のときに被爆した佐々木禎子さんが、10年後に白血病で亡くなったことをきっかけに、同級生たちが「原爆で亡くなったすべての子どもたちのために慰霊碑をつくろう」と呼びかけ、全国の3,200余りの学校や世界9か国からの寄付などにより、1958年5月5日に完成したものです。

像の高さは9メートルで、その頂上には折鶴を捧げ持つ少女のブロンズ像が立ち、平和な未来への夢を託しています。側面には少年と少女の二体の像が配されています。

像の下に置かれた石像には、「これはぼくらの叫びです これは私たちの祈りです 世界に平和をきずくための」という碑文が刻まれています。内部につるされた鐘には、ノーベル物理学賞受賞者である湯川秀樹博士の筆による「千羽鶴」、「地に空に平和」の文字が彫られています。この鐘と金色の鶴は、2003年に複製されたものです。

広島市

青年像

菊池一雄作（1948年 ブロンズ 慶応大学三田キャンパス 第1回毎日美術賞受賞）

モデルは従軍中に喉を潰し、夢を諦めざるを得なかった声楽家志望の学生。菊池一雄は「戦争の空白の中に自分を置き忘れたような暗い影を持った青年に引かれた」と語っている。

建築家、谷口吉郎（1904－1979）が展覧会で一目ぼれした像。かつては谷口自信が設計した慶応大学三田キャンパス旧4号館（大学院棟）の庭園の中心に置かれていた。当初、学内に例のない裸体像を理由として三田理事会では難色を示したが、谷口氏寄贈という形でようやく実現した。

モデルは従軍中に喉をつぶした東北出身の声楽家志望の学生。あごに右手をあて、左手を垂らし、うつむき気味で憂愁を帯びた表情をたたえている。もの悲しさを感じる表情で、若き戦没者に対する慰霊とそれを踏まえての新しい時代への希望を表現しているという。

（慶応大学三田キャンパス「墳丘からの眺め」より）



青年像＝慶応大学三田キャンパス（東京・港区）

浅川巧生誕 130 年・没後 90 周年記念

のりたか たくみ
浅川伯教・巧兄弟顕彰碑

2021 年 6 月 13 日（日）建立

山梨県北杜市 浅川伯教・巧兄弟資料館前広場



北杜市と浅川巧・伯教兄弟資料館・顕彰碑

主な経緯

- 1997年7月20日 「私と清里 そして浅川兄弟」講演 高根町保健センター
- 1997年11月27日 浅川巧公韓日合同追慕祭ソウルロッテホテルにて
- 1998年10月18日 浅川巧の生誕地を訪ねるツアー・高崎宗司津田塾大教授講演「浅川巧の生涯について」山梨県北杜市にて
- 2001年4月11日 浅川伯教・巧兄弟を偲ぶ会に資料館開設記念寄贈
陶磁器4点「白磁無地壺」池順鐸作
「青磁陽刻葡萄文瓶」池順鐸作
「青磁花瓶」柳海剛作
「青磁鉄絵楊柳之筒形瓶」柳海剛作
「陶庵 池順鐸 陶芸集」1冊
トクサル 42点
ワンゴル 現代工芸、作家郭桂晶女史の作品
24点
総計71点
- 2001年8月25日 浅川伯教・巧兄弟資料館竣工開館
- 2002年11月23~2003年1月22日 姜鳳奎「韓国人の貌」写真展開催・資料館にて
- 2003年3月21日 北杜市と韓国京畿道抱川郡姉妹提携
- 2005年1月25日 映画「白磁の人」制作委員会相談役 寄附金100万円
- 2012年4月23日 映画「白磁の人」完成記念上映会
- 2007年6月3日 「天上の弦」陳昌鉉講演・丁讚宇リサイタル
- 2008年6月8日 「日韓歌曲の夕べ」金貞玲リサイタル
- 2014年5月13日 清里銀河塾「ひびきあう心浅川巧」講演開催・ソウル市立美術館セミナー室
- 2015年5月17日 清里銀河塾ソウル版開校・国立山林科学院にて
- 2015年10月17日 韓国ソウルに清里銀河塾世界市民学校開校・国立山林科学院にて
- 2017年12月9日 北杜市市政功労賞表彰
- 2019年11月1日 北杜市市制施行15周年記念第12号市民榮譽賞受賞
- 2020年8月28日 北杜市に油絵「五元」河正雄2020年作86.4×114.0cm(38.0×28.8cm)の9枚組寄贈
- 2021年6月13日 資料館前広場に浅川兄弟の顕彰碑寄贈

「露堂堂」と生きた浅川巧

河 正雄

—ふるさとはありがたきかな—

私を育み、血と肉を作った故郷は生誕地の布施森河内（現東大阪市）、生後移住した秋田県の生保内（現仙北市）。2歳から4歳まで一時住んだ父母の故郷、韓国全羅南道靈岩。秋田工業高校卒業後に定着した埼玉県川口市である。もう一つ忘れてはいけない大事なふるさとはある。青春21歳の時にふらりと降り立った浅川巧のふるさと「清里（現山梨県北杜市）」である。

巧は植民地支配下にあった朝鮮に生きて朝鮮の人々から愛された稀有の日本人である。農業技術普及の傍ら、失われようとする朝鮮の美の発掘に献身した民芸運動の先駆者である。巧の生涯は「人間の価値」が実に人間にあり、それより多くでも少なくでもないことを生が示した国際人である。私は在日の生を巧のように生きたいと念じた。巧のふるさと清里に住まいを持って生きた60年、故郷はありがたきものである。

—浅川巧生誕130年没後90周年—

2021年は浅川巧（1891—1931年）の生誕130年、没後90周年記念の年である。1997年11月27日没後66年忌浅川巧公韓日（日韓）合同追慕祭が初めてソウルで開催された。韓国京畿道九里市にあるソウル市立忘憂里墓地の参拝を終えた後、ソウルのロッテホテルにて追慕祭が催された。その席で私は在日同胞を代表して追悼の辞を述べたことが昨日のこのように思われる。

「本日、浅川巧の追慕の言葉を述べるにあたり、感慨深いものがあります。私は、在日二世であります。日本での戦前戦後の生活は、父母は無論のこと多くの在日同胞は言葉では言い尽せぬ辛苦の歴史でありました。その苦痛は日本と韓国、そして北韓との狭間の中で現在も同じであります。

私は、在日で生きる為の哲学を教えられましたのが、浅川巧の生き方でありました。今から40年前のこと、秋田での高校時代に浅川巧を知ったからであります。それは「人間の価値」の一文でありました。浅川巧の業績は多くありますが、私にとっての感銘は、その生きる姿、考え方であり、日々の行い、営みであります。浅川巧は、韓国の山河や歴史と文化を大きく深いところで見つめていたと思います。国や民族を乗り越えた「共生」を考えていた人でありました。

縁あって、私の在日生活は59年に入りました。その間、時代は物質文明のみ目覚ましく進みましたが、心の病は深く荒んで嘆かわしい限りです。私達は不幸であった時代を乗り越え、21世紀に向けて誠心を込めて友好親善を培い、兄弟であることを忘れてはならないと浅川巧は語りかけておるのです。

私達は、浅川巧の偉大さと心の深さを学び、継承するため今日集い追慕いたしました。「人間の価値」すなわち人格こそ普遍の価値あるものと教えられました。私は、韓国と日本という二つの祖国故郷を愛し寄与して、共に生きることを誓って追慕の言葉と致します。」

追慕祭以来、韓日（日韓）の人々に浅川巧の生の存在が認識されたことは、大きな喜びであった。

浅川巧の生地山梨県北杜市では彼の偉業を顕彰する為に2001年、浅川兄弟資料館を建立した。そして2005年には映画「道・白磁の人」の制作委員会が設立され2012年完成上映に至った。

私は2006年より彼の精神を学ぶ私塾・清里銀河塾を開いて啓蒙活動を行い、共に学んできた。

私は、これまで馬齢を重ね歩んで来たが、情を以って浅川巧を偲び生きた。「露堂堂」と生きた浅川巧を敬愛し感謝を込める。コロナの厄災を祓う意義ある記念の年にしたいと願っている。

浅川巧は、山梨県北巨摩郡甲村（現北杜市高根町）に生まれた。山梨県立農林学校卒業後、4年

余り秋田県大館営林署で農林技手として務めたが、兄伯教と前後して朝鮮に渡る。農林技手として植林緑化の普及に努める傍ら、失われようとする朝鮮の美の発掘に貢献した。植民地支配下にあった朝鮮に生き愛された稀有の日本人である。30数年前までは浅川巧の出生地、山梨県北杜市ですら彼の事は知られていなかった。

1958年、秋田工業高校3年生の時に、安倍能成著『青丘雑記』の「浅川巧さんを惜む」という文を読み、浅川巧に憧れと感謝の念を抱いた。秋田工業高校時代に浅川巧を知った事から、浅川巧は私が在日として生きる為の人生哲学を学んだ敬愛する日本人の一人である。人間誰でも自分だけの隠し田を持ちたがるものだが、朝鮮人と向き合った浅川巧は隠し田など一切持たなかった。

自分のルーツが高句麗人だと思っていたらしい浅川巧は高句麗人の血が故郷の朝鮮へと、私を呼んでいると告白した事でも朝鮮への愛の深さがわかる。歴史的に植民地支配下の難しい時代に、両国の故郷でも受ける苦難を自分の生涯と代わる愛の対象としたが、時代は違えどもディアスポラである在日二世の私には、理解共感する世界人である。浅川巧の名著『朝鮮陶磁名考』（1931年刊）の末尾にある「民衆が目覚めて、自ら生み、自ら育ててゆくところに全ての幸福があると信じる」の文は、その愛の証である。朝鮮松の露天埋蔵法による種子の発芽、養苗開発など、その業績は光る。朝鮮民族美術館建設の推進、朝鮮陶磁器や工芸の研究、朝鮮の膳などの工芸美を考察した著書を残し、韓民族の美意識と魂を民芸と植林の領域で我々の自尊心を高めてくれた。

日本民芸館の創立者柳宗悦（1889－1961年）は『朝鮮陶磁名考』の序文に「どんな著書も多かれ少なかれ先人の著書に負うものである。だが此著書ぐらい、自分に於いて企てられ、又成された物は少ない」と記した。「柳宗悦や民芸運動は朝鮮の日常雑器によって開かれた眼を、日本に転じる所から生まれた。日本の民芸運動の誕生の機縁となった結びつきを作った人に柳の友人としての浅川伯教、巧兄弟があった」と哲学者鶴見俊輔が述べている。

山梨県北杜市出身の江宮隆之著『白磁の人』（1994年刊）の映画化がなされ、2011年に完成し全国で上映会が催されている。制作過程では両国で紆余曲折はあったが、浅川巧生誕120周年・没後80周年を記念する映画が上映出来て喜んだ。それまで韓日両国の若人達や、浅川巧が勤務していたソウルの林業試験場の職員等も関心が薄く、知られていない存在を憂える人々がいた。この映画上映を通して、両国の青少年達に韓国の山と民芸を愛し、韓国人の心の中に生きた日本人・浅川巧の時代を振り返り、その業績を顕彰し今こそ学び合って我々の未来に福音をもたらす果実を収穫せねばならない。

日韓両国の中学校教科書に唯一、浅川巧の人となりで紹介されている。そして2015年には韓国の発展に寄与した世界の70人の1人に浅川巧が選出され「浅川巧の心」が両国国民の心に確かに生きていることは幸いである。

私は2006年より私塾清里銀河塾を18回開催し、これまで学んだ塾生は1000人を超えている。共に学んで善き追憶を辿り、先人の徳を慕い回顧する事は、相互理解が深まり国際親善の糧となる意義がある。韓国では韓国人に墓は守られ、地元山梨県北杜市でも顕彰され、両国から愛されている人物でありながら、顕彰碑が建立されていない事を長年淋しく思っていた。2021年は私が敬愛する浅川巧の生誕130周年没後90周年記念の年に当たる。

ポール・ラッシュ博士は「清里の父」と呼ばれ、顕彰碑も建って敬われ、聖壇に祀られて久しい。私は浅川兄弟もいつの日にか、聖壇に祀られる人物であると1997年の浅川兄弟を偲ぶ会総会で講演をした事がある。それ以来、いつの日にか石に刻みブロンズ像を配し北杜市に顕彰碑を贈ろうと20数年間、構想を温めていた。私は2021年6月13日、浅川伯教・巧兄弟を偲ぶ会結成25周年を記念して、“捧ぐ 敬愛と感謝を込めて”と、私の座右である「露堂堂」の碑文を添え、兄弟のブロンズレリーフの顕彰碑を生誕地に建立するに至った。2019年11月、北杜市市民栄誉賞を受けた報恩と63年来の夢が叶うことになった良縁に感謝してである。

碑のデザインは五重塔をイメージする五層（五段）。碑石は上野公園の王仁博士碑に倣って下層四段は国産の稲田石を割り肌仕上げ。上層は韓国産谷城石を本磨きにして、彫刻家・張山裕史氏の作である浅川兄弟レリーフを配した。碑文は甲府市の書家・峽山植松永雄氏の揮毫による書「露堂堂」である。安倍能成著『青丘雑記』の「浅川巧さんを惜む」の文中にある「その人間の力だけで露堂堂と生きぬいて行った」から顕彰文に採用し、刻むこととなった。



北杜市の寄付採納受諾書＝2021年4月3日



上村英司・北杜市長（左端）を表敬訪問した河正雄夫妻と小沢隆一氏（右端）

＝2021年6月14日

レリーフ



浅川 巧



浅川 伯教

ブロンズ 38×30 cm 2021

浅川伯教・巧青銅刻画作者経歴

張山 裕史(Hariyama Hirofumi)

1969年7月25日生

沖縄県立芸術大学美術工芸学部美術学科彫刻専攻入学

沖縄県立芸術大学美術工芸学部美術学科彫刻専攻卒業

沖縄県立芸術大学美術工芸学部彫刻専攻研究生

沖縄県立芸術大学美術工芸学部彫刻専攻研究生修了

沖縄県立開邦高校非常勤講師 1994年3月まで

池田美術株式会社(埼玉県川口市在)入社

張山美術鑄造所開業 〒509-7122 岐阜県恵那市武並町竹折 8992

沖縄県立芸術大学非常勤講師

名古屋学芸大学非常勤講師

名古屋造形大学非常勤講師



1919(大正8)年3月頃の家族写真

兄伯教が彫刻家をめざし日本に戻るときに京城で撮影した記念写真。前列左から、伯教妻たかよ、伯教次女恵美子、伯教長女牧栄、母けい、巧妻みつゑ、巧長女園絵。後列左、兄 伯教、巧

母けいは、1917(大正6)年に故郷に帰り、

屋敷 田畑を整理し、菩提寺 雨宝山泉龍寺(曹洞宗)に

先祖代々の位牌を新しくつくって納めています。

故郷に戻らない決心でした。

書



黒御影版 55.0×23.0 cm 2021

■峡山 植松永雄 略歴

- | | | | |
|-----------------------|-------------------------------------|------------|--------------------------------------|
| 1940年 | 北杜市白州町白須生 | 2000年(60歳) | 中国歴訪(上海、西安、敦煌、ウルムチ、トルファン) |
| 1959年 | 県立峡北高校卒業(現山梨県立北杜高等学校) | 2003年(63歳) | ヨーロッパ歴訪(イタリア;ローマ・ナポリ・ボンペイ) |
| 1963年 | 二松学舎大学文学部卒業 | 2004年(64歳) | 台湾歴訪(故台北、故宫博物院) |
| 1964年-2001年 | 県立高校書道教諭(身延高、峡北高、甲府西高、盲学校、中央高) | 2004年(64歳) | ヨーロッパ歴訪(スイス;チューリッヒ・アルプス) |
| 1968年(28歳) | 第1回個展(甲府) オリエンタルホテル画廊 | 2004年(64歳) | NHKBS テレビ出演「おーい日本・わたしのすきな山梨県」 風林火山揮毫 |
| 1972年(32歳)-1974年(34歳) | 現代書百選出品(東京上野都美術館) | 2004年(64歳) | 第5回個展(甲府) 桔梗屋花葉亭画廊 |
| 1972年(32歳) | 植松峡山・小笠原環山現代書二人展(甲府県民会館) | 2005年(65歳) | アフリカ歴訪(エジプト;カイロ) |
| 1976年(36歳) | イタリアミラノ展出品(ミラノ中央市民文化センター作品所蔵) | 2006年(66歳) | ヨーロッパ歴訪(ギリシャ;アテネ・デルフィー) |
| 1976年(36歳) | 信玄公祭り 山日紙上に約10年題字揮毫 | 2007年(67歳) | 第6回個展市川三郷町趙大門碑林公園「風林火山」展 |
| 1978年(38歳) | 中国歴訪(広州、桂林、韶山、長沙) | 2007年(67歳) | 白州六人展 白州町金精軒ギャラリー |
| 1983年(43歳) | 第2回個展(甲府) 県民会館地下画廊・教壇20周年記念展 | 2010年(70歳) | 峡山 植松永雄書50年展(山梨県立美術館) |
| 1985年(45歳) | 第3回個展(甲府)甲府西高校 蛇笏生誕100周年記念展 | 2012年(72歳) | 韓国壺岩郡立河正雄美術館作品収蔵 |
| 1988年(48歳) | 中国歴訪(北京、上海、西安、成都) | 2016年(76歳) | 光州市立美術館 壺岩郡立河正雄美術館訪問 |
| 1993年(53歳) | 第4回個展(甲府) 県民会館地下画廊・教壇30周年記念展 | 2018年(78歳) | 光州市立美術館分館河正雄美術館 李禹煥展開幕式参席 |
| 1994年(54歳) | 中国歴訪(北京、上海、西安、成都) | 2018年(78歳) | 身延山松井坊作品収蔵 |
| 1995年(55歳) | ヨーロッパ歴訪(ドイツ;ベルリン、フランス;パリ、イギリス;ロンドン) | 2018年(78歳) | 秋田県仙北市立角館町平福記念美術館作品収蔵 |
| 1995年(55歳) | 白州三人展 白州町金精軒ギャラリー | 2018年(78歳) | 書・陶二人展 ノリタケの森ギャラリー |
| 1998年(58歳) | 植松峡山・平岡陶進二人展(甲府) 県立美術館 | 2019年(79歳) | 浅川巧墓参 ソウル忘愛里墓地 |
| | | 2021年(81歳) | 浅川伯教・巧兄弟顕彰碑揮毫 |
| | | 2021年(81歳) | わらび座作品収蔵 |
| | | 2021年(81歳) | 田沢湖畔故郷の碑揮毫 |

一碑銘・露堂堂 (明歴歴露堂堂) について一

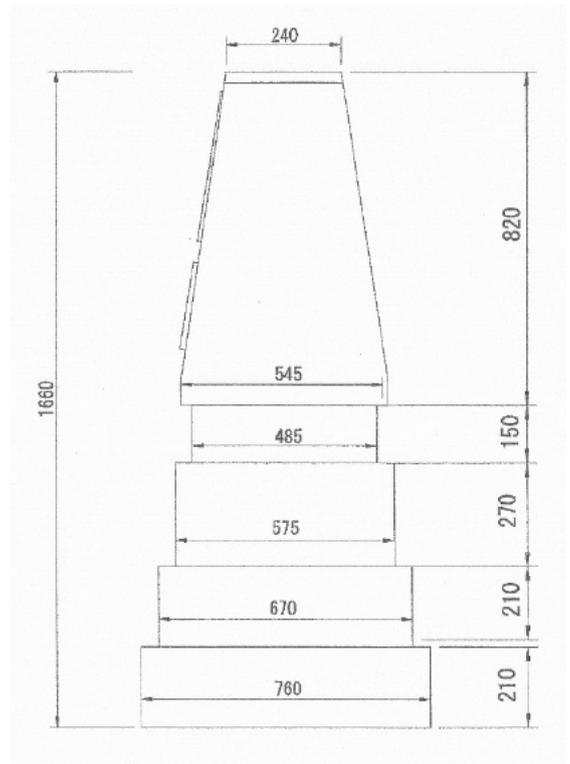
明らかにはっきりと現れていて少しも隠すことがないという仏教極致の句である。「巧さんのやうな正しい、義務を重んずる、人を畏れずして神のみを畏れた、独立自由な、しかも頭脳の勝れて鑑賞力に富んだ人は、實に有難き人である。巧さんは官位にも学歴にも権勢にも富貴にもよることなく、その人間の力だけで露堂堂と生きぬいて行った。かういふ人はよい人といばかりでなくえらい人である。かういふ

人の存在は人間の生活を頼もしくする。殊に朝鮮の様な人間生活の稀薄な所では一層さうである。かういふ人の喪失が朝鮮の大なる損失であることは無論であるが、私は更に大きくこれを人類の損失だといふに躊躇しない。人類にとって人間の道を正しく勇敢に踏んだ人の損失ぐらゐ、本當の損失はないからである。」

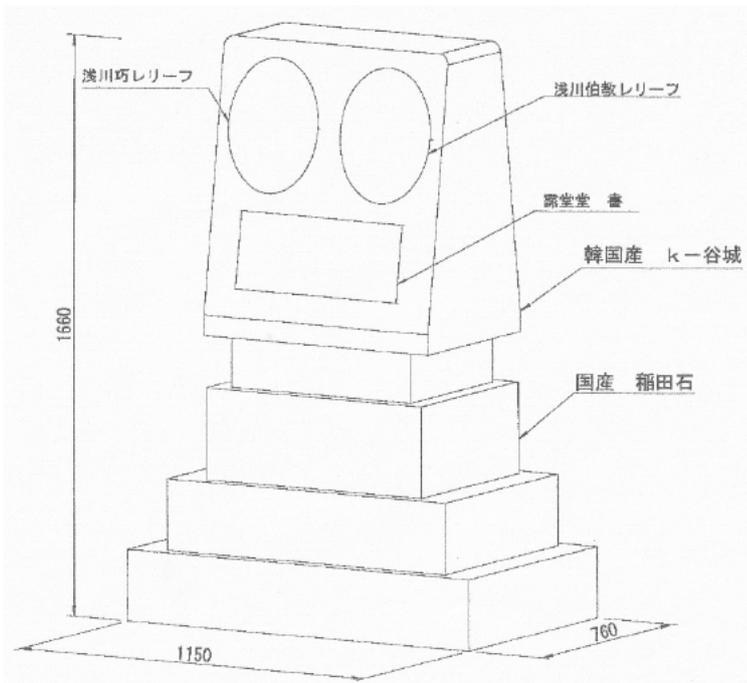
(安倍能成著『青丘雜記』より 1932年 岩波書店刊)



前面



側面



立体



裏面

デザイン：河正雄
 施工：有限会社 関戸石材

国際親善の精神、後世に

日本統治下の朝鮮半島で、白磁など朝鮮民芸の研究や山野の緑化に貢献した浅川巧と、兄・伯教の兄弟を顕彰する碑が、2人の故郷、北杜市(旧高根町)に建立される。在日韓国人2世の実業家、河正雄さん(82)＝埼玉県＝が寄贈した。日韓関係が冷え込む中、朝鮮の風土や文化を愛し、現地の人々からも愛された浅川兄弟をしのぶ河さんは「国や民族が違えども地域に根を下ろして生きる基礎、精神を伝えていきたい」と思いをはせる。

【梅田啓祐】

在日韓国人2世 河さん

今年が巧の生誕130 年、没後90年の節目に当 面には浅川兄弟の顔を たることから、兄弟の遺 徳を伝えようと北杜市に 寄贈した。



河正雄さんが寄贈した浅川兄弟の顕彰碑。河さん提供



顕彰碑を寄贈した河正雄さん＝北杜市で

と記した石板を設置。「良 跡を追うきっかけや、在 日ことをすれば良い結果 日として生きる上での哲 が表れ、悪いことをすれ 学になった。」(浅川)に は悪い結果が起こる」と 憧れと感謝の念を抱い いう意味の禅語で、高校 時代に出会ったこの言葉 難しい時代に生涯をかけ が、河さんが浅川巧の足 て、地域のために尽くし



浅川巧



浅川伯教

◇浅川兄弟
北杜市(旧高根町)出身で、弟の巧(1891～1931年)は1914年、兄の伯教(1884～1964年)に続き朝鮮半島に渡航。朝鮮総督府の林業試験場で山の緑化に取り組み、兄と陶磁器や工芸品を研究し現地でも慕われた。巧は40歳で亡くなりソウル市の共同墓地に埋葬された。

「くれた」と振り返る。河さんは兄弟らの功績を敬い、清里にも居を構え、美術品収集家として地域に根ざして活動。北杜市の「浅川伯教・巧兄弟資料館」にも陶磁器や民芸品などの関連資料を提供してきたが、地元で顕彰碑がないことを数十年前から残念に感じていた。今回「自分も高齢となり、今こそシンボルとして碑をのこさねば」と建立を決意した。顕彰碑は資料館前に設置され、13日に除幕式を予定していたが新型コロナウイルスの感染拡大に伴い延期になった。上村英司市長は取材に「河さんが日本と韓国との絆を築いていただいたこと、心から感謝している。浅川兄弟の功績と精神を未来へと継承していききたい」とコメント。河さんは「兄弟の顕彰碑を通して、多文化共生や国際親善の精神、地域に根付いて精いっぱい物事に取り組む思いが後世に伝わればうれしい」と話し、コロナ収束後の除幕を心待ちにしている。

「毎日新聞」(2021年6月12日付)

国際親善の精神 次世代に

川口市在住で在日韓国人2世の実業家、河正雄さん(81)が、日本統治下の朝鮮で民芸と自然を愛し、人々から敬愛された浅川伯教、巧兄弟の顕彰碑を、2人の故郷の山梨県北杜市に寄贈した。河さんは「浅川兄弟は国境・民族を超え国際親善を实践したヒューマニスト。次世代に伝えてほしい」と話した。

(菊地正志)

浅川兄弟は山梨県北巨摩郡甲村(現在の北杜市高根町)出身。兄の伯教(1884～1964年)は朝鮮陶磁史の研究に生涯をささげ、兄の影響を受けた弟の巧(1891～1931年)は白磁や膳など民芸品に魅せられ、名著「朝鮮の膳」を出版。後の民芸運動に結び付いた。また巧は、林業技師として植林の育苗法を開発、荒廃した山林の緑化に尽力した。

巧は多くの人々に惜しまれて40歳で死去。悲しんだ朝鮮の人々は泣きながら、われもわれもとひつぎを担いだという。

■人生の師

河さんが巧を初めて知ったのは高校3年のとき。哲学者で後に文部大臣になる安倍能成が書いた巧の追悼文を読んで感動。失業と病気で失意のどん底にあった青年時代にも、巧の生き方に励まされた。「巧は人生の師

川口の在日2世 河正雄さん

であり、目標となった」

河さんはその後、北杜市内に第2の居宅を設け、浅川兄弟の顕彰活動をスタート。兄弟にゆかりの白磁など100点余りを北杜市に寄贈したほか、2006年から19年まで18回にわたり、「私塾「清里銀河塾」を主催。日本とアジアの交流を担う若者を育ててきた。

■正々堂々と

顕彰碑は台座が日本の稲田石製、上部が韓国の谷城石製で、高さ約1・7メートル、幅約1・2メートル。浅川伯教・巧兄弟資料館前の敷地に建立された。巧の生誕130年、没後90年となる今年、河さんが長年の夢をかかなえた。

石碑には浅川兄弟の肖像と「露堂堂」の文字が刻まれた。露堂堂は、正々堂々と生きることの大切さを示す禅の教え。安倍能成の著「青丘雜記」にはそ

朝鮮の民芸研究 浅川兄弟の顕彰碑寄贈

の人間力だけで露堂堂と生き抜いて行つた」とあり、河さんの座右の銘でもある。

■未来志向で

寄贈を受けた上村英司北杜市長は「郷土の偉人を、改めて市民の皆さんに知らせていたとき感謝している。これを契機に、国際親善の礎を築いた2人の精神を世界に発信したい」と述べ、日韓関係は冷え込んだままで



浅川兄弟の顕彰碑を寄贈した河正雄さん(右)と妻の伊昌子さん。6月13日、山梨県北杜市高根町の「浅川伯教・巧兄弟資料館」前

「埼玉新聞」(2021年6月24日付)

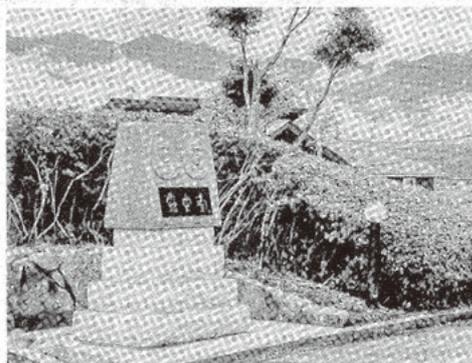
異郷で地域に奉仕

浅川兄弟称え顕彰碑

河正雄さん 北杜市に寄贈

【山梨】日本の支配下にあった韓半島で植林緑化の普及に努め、失われようとする朝鮮民衆の研究に貢献した浅川伯教・巧兄弟の顕彰碑ができた。今年が巧の生誕130年没後90周年の節目にあたることから日同胞2世の河正雄さん(82)が自らデザインし、兄弟の生まれ故郷、北杜市に寄贈した。除幕式は今秋以降、市内の「浅川伯教・巧兄弟資料館」前広場で行われる。

碑のデザインは五重塔一本、下層四段は純白の目をイメージした五層。前面に兄弟の顔をデザインしたレリーフと碑銘「露堂堂(ろどうどう)と谷城を本拠にした。高き166cm、幅115cm、奥行76cmのブロンズだ、奥行きは良い



除幕式を待つ浅川伯教・巧兄弟顕彰碑

結果が表れ、悪いことをすれば悪い結果が起こる」という意味も含んだ禅語。哲学者で後に文部大臣になる安倍能成さんの著書『青山権記』の中から「浅川巧さんを悟む」の文中にあった「官位にも学歴にも権勢にも富貴にもよることなく、その人にか聖壇に祀られる人物

き抜いて行った」から採用した。裏面には「感謝をこめて」と刻んだ。河さんが「関東大震災直後に牧師として来日し、酪農と西洋野菜の栽培促進による開拓支援で「清里の父」と呼ばれたポール・ラッシュ博士が聖壇に祀られているように、浅川兄弟もいつの日にか聖壇に祀られる人物



河正雄さん

河さんは1939年、一東大阪生まれ。両親は日

「露堂堂」を人生の指針に

雇いの夫だった。後に秋田県に移り、就職に有利だからと県立工業高校に入学。しかし、戸籍謄本の不備からただ一人だけ就職できず。将来を見通せず失意のどん底で悶々としていた高校3年のとき、図書館で出会っ

たのが安倍能成さんが書いた浅川巧の追悼文だった。巧を知ったのはこの時が初めて。「露堂堂」すなわち、いいことをたくさんしなさい、自分が正しいと思う道を堂々と歩け。この3つの文字がずっと引っかかっていた。こういう生き方から学ばないと、一つの指針になった。僕にとって、バイブルのようなもの」

高校卒業後、昼間働き、夜間にデザインスクールで学んだ。過労がたり、栄養失調も重なって目を患った。勤め先から自主退社を余儀なくされ、心に大きな痺手を負った。精神的に不安定だった時、登山客に導かれるまま何気なく新幹線から中央線に乗り、下車したのが偶然にも浅川兄弟の育った清里だった。ここでポール・ラッシュ博士と出会い、大きな刺激を受ける。博士は「異邦人」として地域に理解されない寂しさを河さんに訴えたという。河さんは博士に浅川巧の姿を重ね合わせ、どういっしょに遭遇しあってもその地域に奉仕するんだという姿に感銘を受け、

「おれもそういう生き方をしてみたい」と言いつづけたと明らかになった。

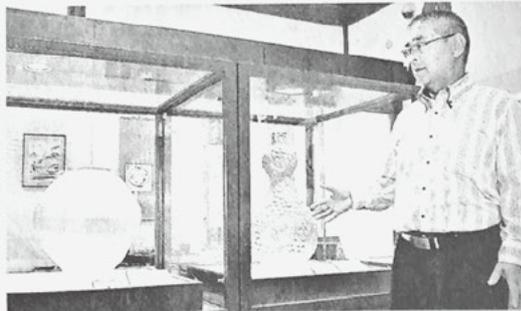
「民団新聞」(2021年7月21日付)

朝鮮愛した兄弟の軌跡 伝え20年

旧甲村(後の高根町、現在の北杜市)で生まれ、日本の植民地だった朝鮮に渡り、朝鮮の文化と人々を愛した兄弟の生涯を伝える北杜市の「浅川伯教・巧兄弟資料館」が、7月18日に開館から20年を迎えた。植民地支配にかかわるテーマに正面から取り組む公設のユニークな施設だ。(佐藤純)

北杜 浅川伯教・巧兄弟資料館

のりたか



浅川伯教の窯跡調査を手伝ったことがある韓国の陶芸家・池順鏞(チ・スン・テウ)さんの青磁(右)と白磁(左)を説明する比奈田善彦館長



1918年ごろの浅川伯教
|| 浅川伯教・巧兄弟資料館提供



1918年ごろの浅川巧
|| 同館提供

資料館によると、兄の伯教は1884(明治17)年、弟の巧は91(同24)年、甲村の農家に生まれた。兄は教員をした後、1910(同43)年に日本が植民地にした朝鮮に13(大正2)年に渡り、弟が翌年後を追った。ともに若いころにキリスト教に出家した。

巧の墓ソウルに

伯教は朝鮮陶磁史の研究に情熱を注いだ。訪ねた窯跡は朝鮮半島全域の約700カ所に上る。山野の緑化に取り組んだ巧は人々に慕われ、工芸品の研究にも力を入れた。兄弟は民芸運動で知られる柳宗悦と親交を重ねた。巧は31(昭和6)年に病没し、ソウルに墓がある。

寄贈された日記

巧が1922、23年に書いた14冊の日記は、日本の敗戦・朝鮮解放後に伯教から託された韓国人男性が大切に保管していた。96年に町に寄贈され、資料館をつくる契機になった。現在は複製が展示されている。

23年9月の関東大震災の直後、巧は、東京と周辺で朝鮮人の放火で被害が拡大したとして多くの朝鮮人が殺されたことを知り、日記に書いた。「どうしても信ずることが出来ない。東京に居る朝鮮人の大多数が焼けている日本人とその家とが焼けることを望んだとは」

日本人の差別意識や朝鮮での神社建設を批判する言葉も残した。寄贈した男性は「過酷な日本帝国主義の植民政策の下、しいたげられた被圧迫民族に温情を注ぐことさえも官憲にいらまれる事であ

ある。伯教は戦後に日本に戻り、64年に亡くなった。資料館は、高根町がつくった生涯学習センター内にある。2004年の合併後、北杜市が引き継いだ。一昨年末で毎年1千〜5千人が訪れた。700点余りの収蔵品の中から、459平方メートルの資料館スペースに貴重な資料や物品、兄弟の活動ぶりを再現したジオラマなどが展示されている。

開館20年を記念し、市は今年11月、巧の日記などをもとに兄弟の生涯を描いた漫画を出す。比奈田善彦館長(67)は「漫画を活用し、若い人たちに兄弟を知ってもらおう普及活動に取り組みたい」と話す。新型コロナ対策などで8月10〜22日は休館する。

「価値ある生き方」次世代に伝えたい ゆかりの人々

埼玉県川口市の在日韓国人実業家で美術品収集家の河正雄さん(81)は今春、兄弟の顕彰碑を北杜市に寄贈し、資料館前に設置された。11月にお披露目の行事が計画されている。

高校生のころ、文相や学習院長を務めた哲学者の安吾能成が巧を追悼した文章を読み、巧を知った。正しく、自由に、自分の力で堂々と生きていく巧にひかれた。河さんは「在日とか、日本とか、韓国とかじゃない。人間として価値ある生き方をした先人に学んた」と振り返る。

若いころに伯教の窯跡調査を手伝った韓国陶芸界の巨匠・池順鏞さんの青磁と白磁など80点以上を資料館に寄贈してきた。池さんの見事な作品は見学者を引きつける。

北杜市の沢谷澄子さん(68)は2008年に資料館の学芸員になり、11〜19年に館長を務めた。「朝鮮でよいことをした日本人見学者がいる一方で、「自虐的だ」という趣旨の批判の手紙が届いたことがあるという。高根町は2003年、巧がいた林業試験場の出張所があった韓国の抱川郡と本格的に交流を始め、北杜市と抱川市が引き継いだ。沢谷さんによると、日韓の政府間の関係が悪化すると、自治体交流も停滞し、韓国から資料館を訪れる人は減った。逆に、そんな状況を変えて足を運ぶ日本人がいた。沢谷さんは「兄弟の生き方とその時代を次世代に伝えるのが資料館の役割。自分と異なるものどう共存していくかを伝えることに存在意義がある」と話す。

「朝日新聞」(2021年8月9日付)

国境超えた人間愛 伝承

清里銀河塾 塾生千人送り出す

河正雄さんは浅川伯教・巧兄弟と清里開拓の父と称されるポール・ラッシュ博士の「国境を越えた人間愛」に感銘を受け、その生き方を広めるための私塾「清里銀河塾」を2006年から開催してきた。

この塾は韓・日の次代を担う若者が浅川巧生誕の地で学び、国際人としてどのように歩むのかを問う、次代に伝承する場である。19年までに18回開催。集立った塾生は1000人を数える。国籍は日本や韓国にとどまらない。中国やベトナム、インドネシアなど多国籍し、寄与して、共に生き

ることを誓った。浅川巧は河さんの人生にも大きな影響を与えたのだ。20歳で迎えた春、特にあてもなく新宿から中央線に乗り、ロマンチックな駅名に惹かれて高原の駅「清里」に降り立った。ここは山梨県高根村(当時)。「周回を見渡すとなぜか、「浅川」あさかわ」という看板が目立った。「ここは浅川巧の故郷ではないだろうか。生まれ暮らした家があるかもしれない。」

軒すつ尋ね歩いた。だが返ってくるのは「さあ、そんな人のことは聞いたこともない」というつれない返事ばかり。60年前、浅川巧の存在はその業績に比して、生まれ故郷でも意外と知られていなかったことがわかる。河さんは67年と77年、高根町役場を訪ねて町の歴史や町史に浅川巧が記述されていないか調査したことがある。結果、「まったくなかった。」

以来、浅川巧との接点、糸口を見いだせないまま時間が過ぎていった。96年のこと。河さんは自宅を訪ねてきた友人から「すばらしい本だよ」と浅川巧の生涯を描いた小説『白磁の人』(江宮隆之著、河出書房新社刊)をプレゼントされた。河さんはむさぼるように読

み、こみあげてくる熱いものを抑えることができなかつた。「浅川巧との出会いは偶然とおうか必然とおうか。どちらにしても深い縁で結ばれていたのだと、その時しみじみ思った。」



講義に立つ河正雄塾長

「ここまでくると大変なことが多かったでしょう」。河さんの問いかけにポール・ラッシュの顔が瞬間曇った。「自分の理想とロマンで在日画家を中心に絵画の収集を始め、総数1万2千点余りになった。これを韓国両国の美術館や大学に寄贈してきた。父母の故郷、全羅南道靈石郡には自身の名を冠した郡立河正雄美術館。そして、光州市には同市立美術館分館河正雄美術館がある。」

河さんは77年、チャペル風の「清泉寮」を訪ねた。偶然、ポール・ラッシュ博士に会い、1時間ほどお話を交わしたことがあった。河さんは東大阪市生まれの在日2世。秋田県で育ち、小学校時代は豚の餌となる残飯集めや新聞配達をしつつ、小学弟の子守をしながら小学校に通学。幼少期から美術に傾倒し、県展では高校生として初の受賞。20代の半ばで在日画家を中心に絵画の収集を始め、総数1万2千点余りになった。これを韓国両国の美術館や大学に寄贈してきた。父母の故郷、全羅南道靈石郡には自身の名を冠した郡立河正雄美術館。そして、光州市には同市立美術館分館河正雄美術館がある。

河さんは77年、チャペル風の「清泉寮」を訪ねた。偶然、ポール・ラッシュ博士に会い、1時間ほどお話を交わしたことがあった。河さんは東大阪市生まれの在日2世。秋田県で育ち、小学校時代は豚の餌となる残飯集めや新聞配達をしつつ、小学弟の子守をしながら小学校に通学。幼少期から美術に傾倒し、県展では高校生として初の受賞。20代の半ばで在日画家を中心に絵画の収集を始め、総数1万2千点余りになった。これを韓国両国の美術館や大学に寄贈してきた。父母の故郷、全羅南道靈石郡には自身の名を冠した郡立河正雄美術館。そして、光州市には同市立美術館分館河正雄美術館がある。

生誕130年 浅川巧の生き方から学ぶ

『浅川兄弟漫画』発刊へ

徳小委員会 北杜市教委が制作

徳小委員会(委員長 徳小委員長 徳小委員長)は、浅川兄弟の生誕130年を記念して、『浅川兄弟漫画』を発刊する。この漫画は、浅川兄弟の生き方を学ぶための教材として制作された。漫画の内容は、浅川兄弟の生い立ち、学業、社会活動などについて描かれている。また、浅川兄弟の業績や功績についても詳しく紹介されている。この漫画は、北杜市教委が制作し、徳小委員会が発行する。漫画の発行は、浅川兄弟の生誕130年を記念して、1月1日に実施される。漫画の発行は、浅川兄弟の生き方を学ぶための教材として、広く活用されることを期待している。

韓・日・在日「ひびきあう心」



「響をもつ巧」(写真提供/浅川伯教・巧兄弟資料館)

「韓国の」と韓国人の心と通じたい。浅川巧は、その死に際しては韓国人によって知られ、韓国で高く評価された。韓国人の心と通じたいという思いが、巧の生き方に大きく影響を与えている。巧は、韓国の文化や歴史を深く学び、韓国人と交流を深めた。巧の生き方は、韓日関係の改善に貢献している。巧の生き方を学ぶことは、韓日関係の改善に役立つ。巧の生き方を学ぶことは、韓日関係の改善に役立つ。巧の生き方を学ぶことは、韓日関係の改善に役立つ。

国境超えた人間愛伝承

清津製菓 塾生千人送り出す

清津製菓は、創業100周年を記念して、塾生千人を送り出す。この塾生は、清津製菓の社員や関係者から募集された。塾生は、清津製菓の歴史や文化を学ぶことができる。塾生は、清津製菓の社員や関係者から募集された。塾生は、清津製菓の歴史や文化を学ぶことができる。塾生は、清津製菓の社員や関係者から募集された。塾生は、清津製菓の歴史や文化を学ぶことができる。



講演に立つ浅川伯教

浅川伯教は、講演で浅川兄弟の生き方を語った。伯教は、浅川兄弟の生き方を学ぶことが、韓日関係の改善に役立つと述べた。伯教は、浅川兄弟の生き方を学ぶことが、韓日関係の改善に役立つと述べた。伯教は、浅川兄弟の生き方を学ぶことが、韓日関係の改善に役立つと述べた。伯教は、浅川兄弟の生き方を学ぶことが、韓日関係の改善に役立つと述べた。



柳宗悦と設置した「朝鮮民族美術展」(資料館)

浅川兄弟の業績や功績を展示する資料館が、高根町生涯学習センター内に開設された。資料館には、浅川兄弟の生い立ちや学業、社会活動に関する資料が展示されている。資料館は、浅川兄弟の生き方を学ぶための教材として活用される。資料館は、浅川兄弟の生き方を学ぶための教材として活用される。資料館は、浅川兄弟の生き方を学ぶための教材として活用される。



「道〜白磁の人」上映 夏に「道端の人文学」

駐日韓国文化院

駐日韓国文化院は、映画「道〜白磁の人」を上映する。この映画は、白磁の人の生き方を描いている。映画の上映は、夏に実施される。映画の上映は、白磁の人の生き方を学ぶための教材として活用される。映画の上映は、白磁の人の生き方を学ぶための教材として活用される。映画の上映は、白磁の人の生き方を学ぶための教材として活用される。

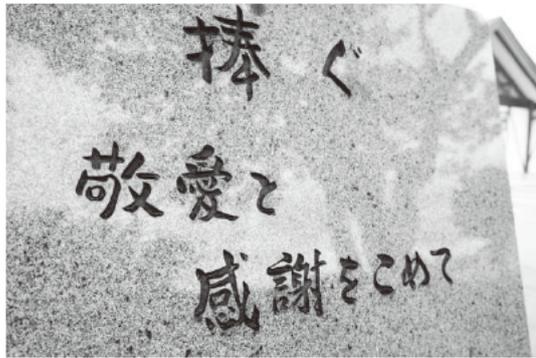


高根町生涯学習センター内の浅川伯教・巧兄弟資料館

当時の時代と歴史 兄弟を通じて検証 資料館

浅川兄弟の生き方を学ぶための資料館が、高根町生涯学習センター内に開設された。資料館には、浅川兄弟の生い立ちや学業、社会活動に関する資料が展示されている。資料館は、浅川兄弟の生き方を学ぶための教材として活用される。資料館は、浅川兄弟の生き方を学ぶための教材として活用される。資料館は、浅川兄弟の生き方を学ぶための教材として活用される。

「民団新聞」(2021年1月1日)



浅川伯教・巧兄弟顕彰碑の裏面。「捧ぐ 敬愛と 感謝をこめて」の文字が刻まれている



浅川伯教・巧兄弟顕彰碑＝山梨県北杜市の浅川伯教・巧兄弟資料館前

聖天院

在日韓民族慰靈塔由来碑

2021年3月27日（土）建立

埼玉県日高市・高麗山聖天院勝樂寺



在日韓民族無縁の霊碑を守る会・聖天院

主な経緯

- 1998年4月5日 施主・在日一世尹炳道氏より埼玉県日高市所在・高麗山聖天院勝楽寺境内地の在日韓民族無縁の霊碑建立の援助を依頼され支援する
- 1998年7月13日 聖天院に澤田政廣作「釈迦如来立像」木刻仏像
墓守羊石像1対（新羅時代の石像）
墓守羊石像1対 若光王墓前前
朴炳熙作「平和の使者」ブロンズレリーフ5点
李龍子作白磁壺1個寄贈
- 1999年3月29日 秋田県仙北市角館の日本国天然記念物枝垂桜5本植樹
2000年4月23日 ケヤキ植樹20本・慰霊塔周辺
2000年11月3日 在日韓民族無縁の霊碑建立落慶法要挙行し式辞を述べる
聖天院本堂落慶法要慰霊塔開眼法要
過去帳 朝鮮人死亡者名簿4310柱奉納
- 2001年9月5日 第2回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
2002年9月5日 第3回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
2003年9月5日 第4回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
在日韓民族無縁の霊碑を守る会創立当番となる
- 2004年9月5日 第5回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
2005年9月5日 第6回慰霊式会報「ひがんばん」第1号発行
2006年9月5日 第7回慰霊式会報「ひがんばん」第2号発行
2007年9月5日 第8回慰霊式会報「ひがんばん」第3号発行
2008年3月28日 角館枝垂桜30本植樹・慰霊塔周辺と寺城内
2008年3月30日 秋田県仙北市角館の日本国天然記念物枝垂桜30本植樹
2008年9月5日 第9回慰霊式会報「ひがんばん」第4号発行
2009年9月5日 第10回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
2010年9月5日 第11回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
2011年9月5日 第12回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
2012年9月5日 第13回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
2013年9月5日 第14回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
2014年9月5日 第15回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
2015年9月5日 第16回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
2015年9月5日 戦後70周年韓日国交正常化50周年記念寄贈
①仏画 四明張孝友作 90×71.5cm
②仏画 四明張孝友作 50×73cm
③仏画 佛説高王観世音経作 58×97cm
北京中央工芸芸術院 張孝友 董沐敬写
- 2016年9月5日 第17回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
2017年9月5日 第18回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
2018年9月5日 第19回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
2019年9月5日 第20回在日韓民族無縁の霊碑慰霊法要
2020年3月27日～29日 「夜桜詣」慰霊観桜会
2021年3月27日～29日 「第2回夜桜詣」慰霊観桜会

聖天院・在日韓民族慰霊塔由来碑の建立

河 正雄

2019年9月5日、埼玉県日高市の聖天院に於いて在日韓民族無縁の霊碑を守る会主催の第20回慰霊祭が行われた。その時、聖天院第51代横田辯宥住職が、在日韓民族無縁の霊慰霊塔建立の由来について100字以内の原稿を依頼された。それまでの20余年間、横田辨明前住職や尹炳道氏からは由来碑についての言及はなかった。寺に成した行為と事績は喜捨と称して、何事も仏様は全て御存知であるからという理解でいたので戸惑いがあった。以下の文章を横田辯宥住職に書いて届けた。

慰霊塔の由来

1995年に尹炳道氏が来山し、在日韓民族の霊碑建立を発願。1996年に尹氏、横田辨明前住職の要請により河正雄氏が協力。20世紀、不幸な歴史の中で犠牲になった在日韓民族無縁の御霊を慰霊し、苦闘の歴史が風化せぬよう2000年に建立し守られている。



在日韓民族慰霊塔由来碑=2021年3月27日、聖天院

2020年は新型コロナウイルスが猛威をふるい、在日韓民族無縁の霊慰霊塔由来碑を建立する計画も宙に浮いたままになっていた。横田辯宥住職も建立が遅れていることに心を痛めていた。

コロナ禍が多少の落ち着きを見せはじめた同年9月、横田住職から「由来碑のことでご意見をいただきたい」と連絡をいただき、9月11日に聖天院に伺った。横田住職は「100字程度では慰霊塔の由来を説明するのは難しいと思う。慰霊塔の経緯を知っているのは河正雄さんだけなので、ぜひご意見とご協力をお願いしたい。来春の完成を考えている」と話され、2021年3月の「夜桜詣」慰霊観桜会を目指して慰霊塔由来碑づくりが再び始まった。

2021年3月27日、住職の尽力で由来碑が慰霊塔前に建立された。20数年来の建立経緯と由来を記した記録が「露堂堂」と蘇り、感謝に堪えない結実となった。以下は由来碑に新たに刻まれた原文で、昔日の営みが刻字され明らかになって今に表われた。当事者の私ですら朧げになっていた記憶を新たにする感無量の証文である。

在日韓民族慰霊塔の由来

この慰霊塔は 戦争・震災等により犠牲となった身元不明の在日韓民族無縁仏の慰霊と供養を目的に建立された 一九九五年 尹炳道氏は当時引き取り手なく人知れず安置されていた多くの無縁仏に憐憫の想いを馳せ 韓民族縁りの地である高麗郷の当山に供養のための仏塔を建立することを発願 尹氏の志に共感賛同した河正雄氏の献身的な協力を得 二〇〇〇年十一月三日に完成した 塔の周囲には異国の地で亡くなった人々の御霊を慰めるために歴史上の偉人達の石像・八角亭・石彫羊像など祖国に縁りの物が配置されている 霊地を彩る桜と無窮花は日韓両国友好への願い 相輪を併せ三十六層の塔には民族の苦難の歴史と戦争により分断された民族統一への願い 塔下納骨堂壁面に飾られた鳩のレリーフには平和への願いを 建立に尽力された尹・河両氏の想いが込められている

尹炳道（一九三〇～二〇一〇）奉納

- 一、三十六層（年）高さ十六メートル 石塔としては日本最大で下部には納骨堂を備える在日韓民族慰霊塔 並びに造成工事一式
- 一、慰霊塔前に日韓親善協会長で運輸・大蔵等大臣を歴任した三塚博氏（一九二七～二〇〇四）揮毫 在日韓民族無縁之霊碑
- 一、慰霊塔擁壁に韓民族の霊を保護する十二支神像石板レリーフと慰霊塔前文人石像二基
- 一、ソウルパゴダ公園の八角亭を縮小し 韓国建材で韓国人大工が施工した八角亭
- 一、慰霊塔を囲む丘陵に祖国の自尊心を高めた歴史上の人物石像六基
 - 紀元前二三三年に即位したという伝説上の古朝鮮王檀君
 - 四世紀末頃千字文一卷と論語十巻を携え渡来した百済の王仁博士
 - 高句麗第十九代広開土王（三七四～四一二）
 - 新羅第二十九代武烈王（六〇三？～六六一）
 - 高麗末の儒学者鄭夢周（一三三八～一三九二）
 - 李氏朝鮮の女流書画家良妻賢母の鑑 申師任堂（一五〇四～一五五一）
- 一、高麗王廟前に国務総理金鍾泌氏（一九二六～二〇一八）揮毫 高句麗若光王陵碑

河正雄氏（一九三九～ ）奉納

- 一、本堂に木彫釈迦如来像 文化勲章受章者の澤田政廣氏（一八九四～一九八八）一九八五年作
- 一、在日韓民族慰霊塔前と高麗王廟前に朝鮮王朝時代の石彫羊対守護像二基（計四体）
- 一、在日韓民族慰霊塔納骨堂壁面に五大陸の平和を祈る平和の使者「鳩」ブロンズレリーフ五点 朴炳熙氏（一九四八～二〇二〇）一九八四年作
- 一、幼少青年期を過ごした故郷の秋田県仙北市教育委員会承認を受け 一九九九年天然記念物 角館枝垂桜（江戸ヒガン桜の変種）実生の苗木五本 二〇〇八年仙台枝垂桜（ヒガン桜系紅色 八重咲き）と吉野枝垂桜（里桜系 白色 一重咲き）の苗木三十本境内に植樹
- 一、本堂に四三一〇名の「朝鮮人物故者名簿」の過去帳

高麗王と眠る

河 正雄

1995年秋のこと、私は家族らと共に被爆都市広島市を訪ねた。光復五十年の節目に広島での差別の象徴であった韓国人原爆犠牲者慰霊碑の参拝が目的であった。平和公園の石碑には「過ちは繰り返しませんから」と誓いの詞が刻まれていた。主語は日本人が反省する言葉ではなく「人類」だという意味を知ったのはその時であった。

人間死ねば皆な仏。仏は皆等しく葬られると私は思っていたのだが、韓国人犠牲者は平和公園内に葬られるのではなく、公園外の対岸に慰霊碑が無神経に建立されていた。

平和都市を宣言しながら侵略戦争の反省がない無情さを知り、がっかりさせられた。無念なる二万余人の韓国人原爆犠牲者達の霊を追悼し、分け隔てなく、一日も早く平和公園内の全ての霊と共に慰霊される事を祈った。私はその時なげなく慰霊碑の裏に刻まれた建立者名の中にある「尹炳道」という名を記憶した。

翌春の事である。私が所属していた東京王仁ライオンズクラブの先輩から「埼玉県秩父市に住んでいる在日一世で伊藤さんという方が河さんの故郷である全羅南道霊岩の『王仁廟』にケヤキの植樹をしたいと言っているのですその橋渡しをしてもらえないだろうか。」という電話があった。奇妙な一世もいたものだと思ったが、私自身も奇妙な人間と言われた事があるので自嘲した。

孫子の代の事を想って「愛する祖国と故郷の為に在日同胞の心として、一人が一本のケヤキを植える運動」を、94年からボランティアで始めたという情熱と使命感に、意気を感じて橋渡しを引き受けた。王仁廟は全羅南道公園史跡である為、無作為に植樹する事は出来ない。



高麗王若光の墓

私は全羅南道霊岩郡庁に伺い、趣旨を述べ、書類を提出し許可が出たところで1996年4月5日「韓国植樹の日」に200本のケヤキを植樹する事になった。

植樹の日、伊藤さんと王仁廟で待ち合わせ初めて顔を合わせた。ジャンパー姿で野良着に等しい出で立ち、首には白いタオルを巻いて作業人風の姿であった。「私は土方です。秩父で農園をやっている者です。」と言って名刺を出された。手渡された名刺を見て私は面喰らった。それには「尹炳道」と記されていた。

その時私は広島の慰霊碑に刻まれた「尹炳道」という名を思い出したからだ。偉大な人と意外な所で出会うものだと御縁を感じ、しげしげと見つめ直した。

植樹を終え光州空港でソウル便を待つ時間があった。その時、尹炳道さんから「あなたが田沢湖の姫観音や田沢寺の朝鮮人無縁仏の供養をしている事を以前から知っていました。」

私は今、埼玉県日高市にある高麗神社に隣接する聖天院に朝鮮人の慰霊碑を建立する為に土木工事をしています。日本に帰ったら一度見て欲しい。そして是非慰霊碑建立に協力して欲しい。」と相談を持ちかけられた。意外な話に戸惑ってしまったが広島の慰霊碑をも建立された程の方だから、徳を積まれているのだと思い直し、聖天院を尋ねる約束をその時にしたのである。

聖天院には十年前にもなるが参拝に行った事がある。その時阿弥陀堂建立の瓦奉納をした思い出がある。懐かしい山門をくぐり登った所に「2000年竣工」と書いた新本堂建立計画の掲示板があった。本堂の裏山では新本堂建立敷地の土木工事がなされておりブルドーザーが山を削ってい

た。

尹さんが言った朝鮮人慰霊碑の建立敷地は更に奥まった所にあった。山を削り立木を払い造成の最中で一大土木工事が進行していた。大規模事業で予算も 2-3 億円と聞いて度肝を抜かれてしまった。在日事業家ら有志からの篤志で賄うので事業費は心配ないと尹さんは言ったが少し不安になった。

紹介された聖天院第五十世横田弁明住職が、尹さんとの出会いと経緯を話された。「平成7年の或る日、20 数年来交誼のある尹炳道さんが来山した折り、終戦までの数十年間に沢山の無縁仏が日本のあちこちに散在したが、誰も奉る者も居ない。何とかこの地に葬り供養したい。戦争中全く日本人と同じ気持ちで過ごし終戦を迎えたという在日の尹氏の言葉に感銘を受け、早速総代に事の次第を報告、役所のあちこちを奔走し、尹氏の心が形となって実現しました。



聖天院山門

心が形と成り、形は人々の心に映じ、心によってこれを支えていくものです。形なき世界に心を寄せ、今後一層確かなものと成る事を念じます。遥かなる古の先祖、同胞を祀る異国の地に心ある同胞が静かに冥福を祈る時、生きている我々の心が通じ合い、安らかな世界が展開するのではないのでしょうか。」

住職は東京芸大で彫刻家山本豊市門下で学び平山郁夫と一緒に学んだ芸術家僧侶であった。地元で教職に就かれた後、聖天院住職になられたと聞いて私は美術を愛好する者として住職を身近に感じた。

私財を投じてまで何故このような事業を思い立ったのか。かつて尹さんは、発願に至る想いを次のように語っていた。

在日韓民族慰霊塔と慰霊碑は民族統一を願い、日本国内に於ける民団や朝総連の垣根を超え、関東大震災、第二次大戦で犠牲となった同胞の御霊と、渡来人の御霊が安眠できるように供養したい、との願いを込めて発願しました。

私が高麗の地に「白衣民族の聖地」をつくらうと思いついたのは、李方子妃殿下が聖天院を訪れた 20 数年前に遡ります。妃殿下は、私を前に「自分が死ねば高麗若光の隣に骨を埋めたい」と語っていました。生前妃殿下の願いは叶えられなかったが、それ以来「朝鮮人、韓国人の全てのお骨を拾ってあげよう」という気持ちになったのです。

まず、思い浮かんだのが関東大震災で犠牲になった同胞の霊。東京・目黒区の祐天寺に保管されたまま、引き取り手のない第二次大戦当時の同胞軍人・軍属の遺骨。いずれは全国に散らばる引き取り手のないまま、放置されている無縁仏を安置したいのです。

ここを白衣民族の聖地にすれば、朝鮮人も韓国人も区別無く、いろんな人が好きなきにきて線香を手向けられると思う。完成したら毎年 10 月 3 日の開天節に合わせ法要をしていきたいと思えます。六・二五動乱の最中、何の罪もない同族が死んでいくのを目の当たりにしたので「白衣民族の聖地」には南北の平和統一を願う気持ちも込めました。

聖天院新本堂新築の基礎工事も請け負いました。境内奥にそびえ立つ慰霊塔は高さ 16 メートル。石塔としては日本最大、日本との過去の不幸な関係を象徴する意味

で36段階にしました。その下の納骨堂には、名前と生年月日の判明している遺骨と無縁仏の安置所です。70万柱以上納めることができます。たとえ遺骨が無くても、納骨堂の裏には遺骨の埋葬場所の土を「トラック1台分」納められるだけの穴が六つ掘られています。

慰霊塔左手には三・一独立運動緑りの地、ソウルのパゴタ公園にある八角亭を縮小再現し、その建材は全て韓国から運び建立します。慰霊塔後方の高台では壇君像が一際高見から「聖地」を見下ろし、傍らに申師任堂、太宗武烈王、王仁博士、鄭夢周など韓国の偉人の石像を並べたいと思います。韓国文化庁とも相談して決め、石材は韓国産の花崗岩を使います。

埼玉県日高市にある高麗山聖天院勝楽寺というお寺は、実に不思議なお寺で、そこには天皇家縁りの菊の御紋があるのです。高麗という地名にもあるように、半島からやってきた人々が住み着いて開拓した地です。記録にはありませんが、韓国の三国時代に新羅に破れた百済（ペクチェ）の民が渡来してきて、ここに住み着き、その後、高句麗の渡来人達がやって来たのではないかと思います。

『続日本紀』によれば当時、高麗人を率いた高句麗七代の王子、若光王がここを開拓したと記されています。当時の半島は日本よりも先進文化を持っていて、その技術を以て稲作を始めたのだらうと思っています。この地には、埼玉県重要文化財指定の巾着田の遺構が残っていて、当時、稲作が初めてもたらされた事が判っています。

ここを開拓定着するようになったのは、半島での三国時代の関係が影響して、当時未開の地だった関東平野が生かされるようになったのではないのでしょうか。不思議な事に、この地は韓国の風水の専門家が見ても素晴らしい土地で、日本の中心の地であるとも言われています。聖天院勝楽寺は約1250年の歴史を持っている古刹で、正に白衣民族の聖地にふさわしい所ではないのでしょうか

尹さんの事業に協力するようになった私は、納骨堂の壁面には五大大陸の平和を祈る「祈願の形象—平和の使者・鳩」（作者・朴炳熙・韓南大学教授）のブロンズレリーフをあしらった。この作品は私に縁りのある田沢寺（秋田県仙北市田沢湖田沢寺下）の朝鮮人無縁仏を慰霊する「よい心の碑」の壁面、韓国光州市立美術館の壁面にも設置している。

海峡を超えて魂だけでも自由に往来し、羽を休めて欲しいという念願からであり、未来の春を忍び慰霊の縁（よすが）になることを祈願する為である。



羊の石像

また慰霊塔前と王霊廟前には霊を守護する「羊の石像」をそれぞれ配置した。1981年春の事である。京都平安神宮近くの美術商の店先に「羊の石像」が置かれていた。それは新羅時代の物であった。

「名前をお教えする事は出来ませんが戦前に外務大臣を務めた方の芦屋の別荘から出た石像で今は遺族が熊谷に住んでいます。多分、戦前に韓国にあった物でしょうね。」そう言って芦屋の別荘に置かれていた石像の写真を美術商は見せてくれた。

「羊の石像」は韓国の高貴な方の墓の守り神として安置した物である。そ

の時代の物は骨董品として持ち運ばれて、その像は韓国でも貴重な文化財である。韓国の歴史の証人である「羊の石像」は我が家の庭に安置されていた物である。韓民族無縁の霊碑を守護する

事になったことは本来の役目を担う為に収まる場所に収まったのではないかと私は胸を撫で下ろしている

1998年7月13日の盆の入りの日に我が家から釈迦如来像を聖天院本堂に納め安置した。その日は我が家に初めて男子の孫（河家三十五代目）が誕生し、喜び満ち溢れた日となった。像の作者澤田政廣氏（文化勲章受章・熱海市立澤田政廣記念美術館）自宅に伺い釈迦如来像の制作を依頼したのは1982年の事である。先生は88才にもなっておられた。お願いしたところ約束出来ないと言われた。二十世紀の時代に、日本国内で不幸にして亡くなられた、我々の先輩や先祖の霊を慰める為の仏像を彫って欲しいという、私の熱意を承諾して下さったが、高齢なので本当に像が出来上がるかどうか私自身、半信半疑となったが先生は意気を示して下さった。像が完成したのは1985年。像を引き渡される時、先生は「これが私の最後の作品になるかもしれないね」と私に言われた。この像には先生最後の全霊が込められているのだと思い感謝の念を強くした。先生は1988年93才で旅立たれた。

1999年3月29日、慰霊塔慰霊碑の左右と、新本堂前に各1本、王仁霊廟前に2本、計5本の秋田県角館の枝垂桜を植樹した。私が少年時代を過ごした母校の先輩である奥田敦夫先生の御好意である。また2008年3月28日には30本の角館枝垂桜を追加寄贈し、植樹した。秋田県角館の枝垂桜は江戸彼岸桜で国の天然記念物に指定されている。樹齢200年以上の老樹が華麗に咲き誇る角館の武家屋敷の風情は日本の風景を代表する景観である。聖天院に白色の枝垂桜が舞うように咲き誇る日は遠くない。

住職と尹さん、私のトリオには完成までには好余曲折があったが2000年11月3日に落慶の日を迎えた。その日は尹さんと私の誕生日だという偶然を知った。前日は台風崩れの暴風雨が当日は収まり、つつがなく落慶法要が営まれたのは仏様のご加護かと思った。

その式典で私は心を込めて式辞を読み上げた。私は在日一世尹炳道さんの祈りと願いを実現する為に二世として協力させていただいた事を天の配慮と参席者に感謝した。

落慶を終えた年末の事である。在日の老人ホーム「心の家族」の尹基さんが毎日新聞社の福祉賞を頂くという事でその授賞式に参席した。その席に統一日報の記者が取材に来ていた。

「河さん、広島原爆の韓国人慰霊碑は戦後24年経っても建立されない事を嘆き続けた地元被爆者の故尹炳道さんの提唱によって活動が始まり1967年春建立されたんだよ。秩父の尹炳道さんとは違う方だよ。」と記者に教えられた。そこで初めて同姓同名の別人だということを知った。「広島尹炳道さん」と「秩父の尹炳道さん」を短絡的に同一人物と思い込んでいた私だったが、2人の尹炳道さんと出会えた事はどちらも縁以外の何者でもないと思った。

というのは落慶法要の時、私は広島原爆犠牲者の過去帳（1969年から1987年迄のもの）2489名の名簿を聖天院に奉納したからだ。そして広島韓国人原爆犠牲者慰霊碑は1999年になって平和公園内に移築安置された事を広島故尹炳道さんに報告した。



釈迦如来像

「韓民族慰霊碑」建立に寄せて

寄稿 河正雄 (在日韓協同文化会)

埼玉県日高市は「高麗の郷」として知られている。八世紀にこの地に入植した高麗王若光一族の菩提寺聖天院勝楽寺の境内に、このほど「韓民族慰霊碑」が建立され、今年秋の落慶法要に向け準備が進んでいる。在日韓協同文化会会長の河正雄さんに、碑建設に至る経緯と、その意味について文章を寄せていただいた。

私の高校時代の同級生が、埼玉県日高市に住んでいました。その神社に隣接する「日高市には高麗神社がある」と、案内するから遊びに来いよと誘われて行ったことがある。二十数年前のことである。日高地方は、高麗郷と呼ばれ、三方を秋父連峰の余脈に囲まれ、古い歴史がある。

統一日本紀紀元二年(七十六年)五月の条には「駿河、甲斐、相模、上総、下総、常陸、下野、七カ国の高麗人千七百九十九人を武蔵国に移して高麗郡を置くと、高句麗人の里であった」と記されている(日本では高句麗を高麗と呼んでいた)。

春霞の山並みに囲まれた里は、韓国で見た風景とどうも似て、得もいれぬ暖かさを感じて親しみを覚えた。初代の郡長若光(高句麗末の王子、高麗王)は、大いに治績をおさめ郡民敬慕のうちにその没後に誦らた生涯を終えた。王の徳をしのび誓いを誓ったのが高麗

の歴史である。以来、聖天院は高麗郡の本寺となり、高麗山はじめ郡民の菩提所として今日に至っている。王招来の聖天尊は人々の篤い信仰を集めて来たのである。

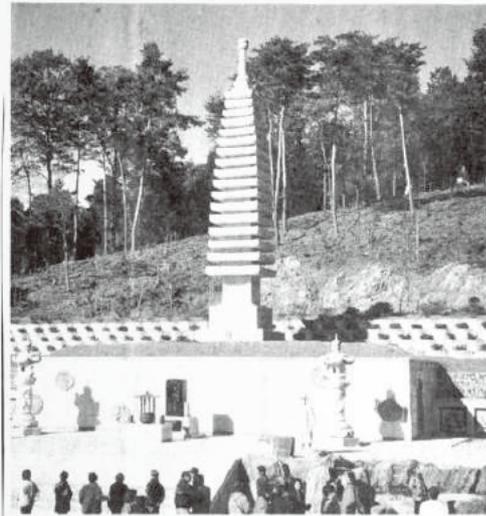
その山門の傍らに若光王の墓がある。真山には一般の墓があつて、その中には二十基もの在日本韓・朝鮮人の墓石がある。

◇ ◇ ◇

高麗王の侍念僧勝楽は、王の冥福を祈らんがため、王の念持仏(聖天尊)を本尊として勝楽寺を創建し、王の墓を祭ったのが高麗山開基の歴史で、七五一年の恩たちと共に永遠の安眠を

高麗の郷に人権のシンボル

苦難の歴史生きた同胞を慰霊



聖天院境内に建立された「韓民族慰霊碑」。中央の石塔は高さ16m、その下に納骨堂がある

とである。与えて供養したいと願う、ヤキ会を九四年に発足させた。今までに約一万余のヤキを黙々と植樹してきた。九八年には光州市の五・一八聖地に二百本ものケヤキを献樹、その奉仕精神には感銘を抱く。

下部に納骨堂が備わっている。その周囲には無縁仏が数多く散らばる。生前白衣民族であったことを忘れぬように、檀君をはじめ広明土大王、太宗武烈王、鄭夢周、王仁博士、申

◇ ◇ ◇

在日は二十一世紀に向けて、その存在と意味が問われるものと信じている。この秋十一月三日、聖天院において慰霊塔と碑の落慶法要が営まれる。千二百五十年の歴史をもつ聖天院は、人権のシンボル、在日の魂の故郷、聖地として永遠なる灯を灯すことになったのである。

◇ ◇ ◇

高めた偉人たちの石像が記されている。慰霊塔左手に立つ八角亭は三・一独立宣言書を初めて朗読した、ソウルのパゴダ公園内の八角亭を縮小建築したもので、祖国同胞により祖国の建材を使用して施工された。



「統一日報」(2000年3月14日付)

河正雄コレクション資料集 (既刊紹介)

■第1号 (2020年9月発行)

関根伸夫 (「もの派」作家)

往復書簡 / 「散華」作品と原図 / 李禹煥「関根伸夫」論

■第2号 (2021年1月発行、3月第2刷)

川田泰代 (ジャーナリスト・平和活動家)

涼州詞と泛海詩 / 書がつなぐ縁 / 陳玉璽救援 / 中国との絆 / 評伝

■第3号 (2021年4月発行)

岩田 健 (彫刻家)

評伝「岩田健彫刻の歩み」 / 兄の碑 / 「永瀬四朗日記」と関東大震災

■第4号 (2021年8月発行)

江上 越 (アーティスト)

江上越×河正雄「コミュニケーション」 / 千葉成夫「江上越論」

河正雄コレクション 資料集 第5号

菊池 一雄

2021年10月27日発行

発 行 河 正 雄

<https://www.ha-jw.com/>

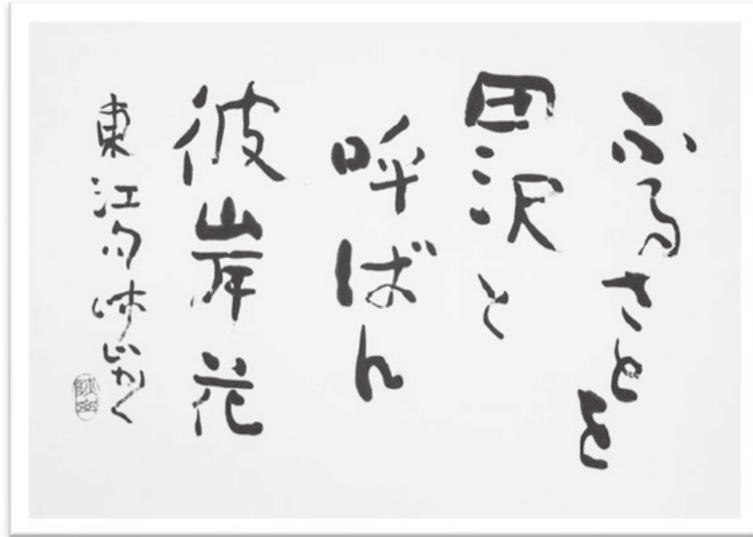
編 集 菊 地 正 志

印刷製本 株式会社 双信舎印刷

非売品

表紙（写真）：菊池一雄作「平和の群像」

裏表紙（俳句）：河正雄作、植松永雄書



河正雄コレクション 資料集 第5号

菊池 一雄